

野口英世 記念会報

第 65 号



目次

巻頭言	1
第62回野口英世記念医学賞	2
第62回野口英世記念医学賞を受賞して	4
野口英世記念奨学生	10
令和元年度奨学生証贈呈式	14
第57回奨学生懇親会	14
第25回野口英世博士顕彰記念少年科学賞	15
野口英世博士顕彰記念事業	16
第58回野口英世博士顕彰記念作文コンクール	17
野口英世記念館三たび	20
第18回心の手紙コンテスト「母から子への手紙」	24
子どもの成長を見守るということ	26
野口英世メキシコ訪問100周年記念行事	28
野口英世記念館の動向	33
開館80年記念特別展	
おもてなし企画開催	
生家登録有形文化財石柱碑除幕式	
文化財登録プレート伝達式	
野口英世博士命日祭	
救世観音祭礼	
ガーナ共和国との交流	
野口英世アフリカ賞受賞者来館	
猪苗代町立猪苗代中学校1年生5名見学学習	
野口英世の生家で年中行事	
さとうきび親善大使来館	
各地で行われたイベント	
いなわしろフェスティバル	
極上の会津イベント	
野口英世の書「自戒」贈呈式	
ハイウェイフェスタとうほく2019	
ばんえつ発見の旅連携事業	
イオン会津フェスタ2019	
出前授業に行きます！	
令和元年度の受け入れ資料	
令和元年度 主な行事	
令和2年度 主な行事予定	
野口英世記念会寄付のお願い	
野口英世渡米120年記念特別展	
野口英世記念館案内	
表紙	
裏表紙	
メリダで野口英世が宿泊したホテル	
野口英世生家登録有形文化財 登録プレート	

巻頭言

令和元年6月に、八子弥寿男理事長の後任として、公益財団法人野口英世記念会の理事長に就任いたしました。

公益財団法人野口英世記念会の起源は、野口英世が西アフリカの黄金海岸（現在のガーナ共和国）において黄熱病で斃れた昭和3（1928）年5月21日の翌月、6月29日にさかのぼります。東京・丸の内の日本工業倶楽部において行われた追悼会の終了後、追悼会に出席した関係者が、期せずして「後世に、科学者・野口英世の業績と生涯を伝える」ために記念会を創ることを決定したと記録されています。追悼会の発起人のリストには、北里柴三郎（日本医師会会長）をはじめ、山川健次郎（元東京帝国大学総長、元京都帝国大学総長、元九州帝国大学総長、会津若松出身）、荒木寅三郎（京都帝国大学総長）、後藤新平（元外務・内務・通信大臣、元東京市長、福島県の須賀川医学校出身）などの名が並んでいます。

野口英世記念会は、昭和14（1939）年に野口英世記念館を開館し、ロックフェラー医学研究所とメリー未亡人から寄贈された野口英世の遺品を広く一般に公開し、野口英世の遺徳を偲ぶ^{よすが}因としました。平成27（2015）年には、小学校高学年の児童の皆さんにも科学者・野口英世について楽しく学んでいただける展示をコンセプトに、リニューアルを行いました。

平成25（2013）年、野口英世記念会は、公益財団法人として再出発しました。私は、公益財団法人野口英世記念会の2代目の理事長として、記念会創設以来の先人たちの「後世に、科学者・野口英世の業績と生涯を伝える」という意志を受け継ぎ、引き続き野口英世記念館の運営を行うとともに、平成31年に国の登録有形文化財に登録された野口英世の生家の維持保存・公開、野口英世記念医学賞の授与（昭和32年創設）、野口英世記念奨学金の貸与・給付（昭和34年開始）、野口英世博士顕彰記念少年科学賞の授与（平成7年創設）を柱として、野口英世の生誕地猪苗代において、地域と連携した活動を展開してまいります。

皆さまの従来にも増すご支援とご鞭撻をお願い申しあげます。

令和2年4月1日

公益財団法人 野口英世記念会

理事長 竹田 美文



第62回野口英世記念医学賞

野口英世記念医学賞は、野口英世博士が生前に行った研究に関係のある優秀な医学研究に対し、その功績を表彰するものです。

受賞者

大阪大学微生物病研究所教授
医学博士 飯田 哲也



飯田哲也博士

研究課題

ビブリオ属細菌のゲノムと病原性に関する研究

授賞式

令和元年11月2日
野口英世至誠館

授賞式次第

研究業績概要

飯田哲也博士は、京都大学理学部を卒業後、大阪大学大学院医学研究科の修士課程・博士課程を経て、大阪大学微生物病研究所の助手として、ビブリオ属細菌のゲノムと病原性についての研究を始めました。

ビブリオ属細菌はおもに海洋に広く棲息するグラム陰性桿菌です。コレラ菌や腸炎ビブリオといった重要なヒト病原細菌がこのグループに含まれます。飯田博士は、食中毒原因菌である腸炎ビブリオの染色体地図を作成する過程で、本菌のゲノムが2つの環状染色体よりなることを明らかにしました。また、このような2つの染色体よりなるゲノム構造が、コレラ菌など他のビブリオ属細菌全体にも共通の性状であることを明らかにしました。一般に細菌のゲノムは1つの環状染色体よりなると考えられてきましたが、飯田博士の研究はそれまでの細菌学の常識を覆したものでした。

その後、腸炎ビブリオゲノムプロジェクトのプロジェクトリーダーとして腸炎ビブリオの全ゲノム配列決定に貢献し、世界に

さがかけて報告を行いました。腸炎ビブリオのゲノム解析の結果、本菌が3型分泌装置遺伝子群を保有していることを見出し、また、遺伝子破壊株を用いた実験により腸炎ビブリオに見出された3型分泌装置が本菌の病原性に重要な役割を果たしていることを示しました。その後、腸炎ビブリオの3型分泌装置から分泌されるエフェクター蛋白質、3型分泌装置を構成する蛋白質群、トランスロコン、分泌の分子スイッチ、および発現制御蛋白質などを同定し、これにより腸炎ビブリオの3型分泌装置に関わる分子群のほぼ全容を明らかにしました。さらに、腸炎ビブリオの細胞毒性に主たる役割を果たすエフェクター蛋白質VepAと下痢原性に主たる役割を果たすVopVをそれぞれ同定し、その作用機序を解明しました。また、さまざまな腸炎ビブリオ菌株の遺伝子レパートリー解析により、ヒト病原性腸炎ビブリオが出現した進化過程を解明するとともに、3型分泌装置遺伝子群が水平伝達により種を超えてコレラ菌など他の



表彰を受ける飯田哲也博士

開式の辞	理事	太田 伸生
選考経過報告	選考委員長	木下タロウ殿
医学賞授与	理事長	竹田 美文
式辞	理事長	竹田 美文
来賓祝辞		
福島県知事	内堀 雅雄殿	
駐日ガーナ共和国特命全権大使	フランク・オチェレ殿	
猪苗代町長	前後 公 殿	
千葉大学真菌医学研究センター長	笹川 千尋殿	
祝電披露		
受賞者謝辞	飯田 哲也殿	
記念講演	飯田 哲也殿	
閉式の辞	倉根 一郎	



祝辞を述べるオチェレ・ガーナ大使

ビブリオ属菌にも保有されていることを明らかにしました。ごく最近には、腸炎ビブリオの主要な病原因子と長年考えられてきた毒素である耐熱性溶血毒について、本菌による下痢発症におけるその役割を明らかにしました。以上の成績は腸炎ビブリオをはじめとするビブリオ属細菌の病原性研究に新たな展開をもたらしたものであり、近年、欧米を中心に多くの研究者がこの研究分野に参入してきています。

以上のように、飯田博士の業績は細菌学と医学の発展に大きく貢献するものであり、野口英世記念医学賞に相応しい独創的な研究であります。



謝辞を述べる飯田哲也博士



祝辞を述べる笹川千尋博士

第62回野口英世記念医学賞を受賞して

飯田 哲也

この度は、第62回野口英世記念医学賞受賞という栄誉を賜り、心より御礼申し上げます。これまでに本賞を受賞された諸先輩方の

お名前はまさに錚々たる顔ぶれで、私にとりましては「先輩」というよりも憧れの領域に属する先生ばかりです。このような歴史ある賞の受賞者の末席に加えていただきましたことは身に余る光栄でありますし、また同時に身の引き締まる思いがいたしております。

授賞式は、2019年11月2日、心地よい秋晴れの中、猪苗代湖畔にある野口英世至誠館で開催されました。磐梯山には紅葉が始まっており、野口英世博士もこの景色を見たと思うと感慨もひとしおでした。野口英世至誠館に隣接する野口英世記念館には、野口英世博士の生涯と研究業績がとても分かりやすく紹介されており、博士の偉業とお人柄を改めて感じることができました。記念館の敷地内には野口英世博士の生家が残されており、特に博士が幼少時に落ちて左手に火傷を負った囲炉裏がそのまま残っているのには感動いたしました。



当時の姿を残す囲炉裏



記念講演を行う飯田博士

授賞式では、台風や大雨の被害への対応で大変なご苦勞をされている中、福島県知事の内掘雅雄様からお言葉を賜りました。また、大変お忙しい中、駐日ガーナ共和国特命全權大使のフランク・オチエレ様および猪苗代町長の前後公様に臨席賜り、暖かいご祝辞をいただきました。この場を借りまして改めて厚く御礼を申し上げます。

今回、私がこの賞をいただいて特に嬉しく思っておりますのは、私の専門が野口英世博士と同じ細菌学である、ということです。もちろん、野口英世博士が活躍されていた時代の細菌学という学問は、医学領域のみならず、すべての科学の領域の中でも最先端の学問であつたと思いますので、現在と状況は同じではないと思いますが、これまで細菌学の分野の先達として野口英世博士の背中を追っかけてまいりましたので、今回、その博士のお名前を冠した賞をいただけたことは、私にとってこの上ない喜びです。

私の研究室に海外からの留学生が何人かおられます。今回の受賞が決まった際に、その中の一人、インドネシアからの留学生が、「野口英世記念賞、おめでとうございます。」と言ってくれました。その留学生に「野口英世博士を知ってるの？」と尋ねたところ、「千

円札の人でしょ！」との答えが返ってまいりました。日本人の中で野口英世博士を知らない人はほとんどいないのではないかと思います。日本を訪れている多くの外国人の方々にも野口英世博士は知られているということ。を今回改めて認識した次第です。

私の職場であります大阪大学からそれほど遠くないところに箕面の滝という名所があります。1915年に野口英世博士が凱旋帰国をされた際にお母さんを連れて行かれ、そこで親孝行をされたということで有名なところ。です。滝に至る滝道を少し脇に入ったところに、試験管を持った野口英世博士の像が立っています。私は研究の上で気合を入れたい時

に、時々そこに伺って野口英世博士にご挨拶をしています。今回の受賞のおかげで、その野口英世博士の生誕の地に、私の母を連れてくる事ができたことを大変嬉しく思っております。ただ、1915年の凱旋帰国の際、野口英世博士は「年老いた」お母さんを箕面に連れて行かれたということになっておりますが、当時、お母さんは61歳くらいであつたということ、むしろ現在の私の方が当時の野口英世博士のお母さんの年齢に近いというのを今回知りまして愕然としてるところであります。が、まだもう少し頑張っていきたいと思っております。

私は1984年に京都大学理学部を卒業い



箕面公園の野口英世像

たしまして、すぐに大阪大学のいわゆる医学修士課程に入学したのですが、入学式の日に休学届を出しまして、1年間、海外を放浪、というか貧乏旅行をいたしました。はじめに韓国で道路工事をいたしました。その後、東南アジア、中国、また、当時日本人に開放されたばかりであったチベットからネパールに抜けるルートをヒッチハイクで旅をしました。そして、1年後に大阪大学の医学修士に復帰しました。大阪大学の医学部にはいろいろな研究室がありました。例えば免疫学で非常に有名な研究室であったり、脳の研究、あるいは癌の研究で有名な先生もいらつしました。医学修士というのは、基本的にそのどの研究室にも行くことができたのですが、その中で私が選んだのは、微生物病研究所の三輪谷俊夫先生の研究室でした。三輪谷先生は腸炎ビブリオの発見者である藤野恒三郎先生の後継教授でした。この1985年頃というのは、細菌感染症は抗生物質によってすでに制御できる疾患だというように一般には考えられておりまして、感染症の研究をやっているという、なにを古臭い学問をやっているんだという風潮でありました。特に阪大のように最先端の研究が行われているところではそういう雰囲気が強かったように思いま



研究業績展示

すが、私は1年間の休学中に途上国を放浪する中で感染症で体調を崩すこともありまして、やはり感染症というのは地球上ではまだまだ重要な疾患であるというのを体で実感しておりました。さらに、感染症はもう済んだということの研究があまりされなくなっている分、微生物と人間との相互作用という点で、研究すべき興味ある問題がたくさん残っているのではないかと感じたこともあり、微生物病研究所に籍をおいた訳であります。

研究室に入ってから修士・博士課程の間は、細菌の毒素の構造と機能についての研究を行

いました。この研究はある意味自分一人で行ける研究でありまして、コッコツと遺伝子を取って、蛋白質を精製して、解析する、という仕事でありました。この時期になにか重要な発見ができたかという心もとないですが、ひとつだけ言えるのは、この時期は私自身、非常に実験を行ったと思います。修士の時のある1ヶ月は、うちに帰ったのが2日だけだったということもありまして、ほとんど研究室に泊まり込みだったというように記憶しております。この時だけに限っては、もしかしたら野口英世博士と同じくらい実験をしたかもしれせん。修士・博士の間はそういう感じだったのですが、1991年に助手になりました。その時の研究室の教授は三輪谷先生の後継の本田武司先生でした。当時研究室には、海外からの留学生がたくさんいました。私も助手になりましたので何人か世話をしないといけないということになりました。自分自身で実験する分には好きなことができるのですが、ほとんど初心者のような留学生を同時に何人も面倒を見る場合には、なかなか掘り下げた実験というのは難しい状況がありまして、その時考えたのは、世界中にいる腸炎ビブリオを各国から持ってきてもらって、それらに腸炎ビブリオで知られている毒



研究室のみなさんと

素の遺伝子があるかどうか、もしあるとしたらゲノム上のどこにあるのか、という解析をとにかく数をこなしてやってみよう、ということでした。

そのような研究を続けていくうちに、すこし不思議なことに気がつきました。当時、腸炎ビブリオにはいくつかの毒素が知られていたのですが、こういう解析をしますと、どうも腸炎ビブリオのゲノムの上で、これらの毒素の遺伝子が同じようなところに存在している。これはなんだろうと思っていました。た

だ現在ではゲノム解析というのが簡単にできるようになっていますが、当時はまだこれを詳しく解析する方法がありませんでした。で、その代わりに行ったことは、染色体地図の作製です。基本的に細菌のゲノムは、環状の染色体ひとつからなるとずっと信じられてきました。この構造を大まかに調べるためにゲノムDNAをある酵素で切りますと、いくつかの断片に分かれます。それらがどういう順番に並んでいるのかを調べて、それぞれの断片にどういう遺伝子が乗っているのかを調べると、細かいところまでは分かりませんが、おおよそのゲノムの構造が分かる、というのが染色体地図です。この染色体地図の作製であれば当時でもできました。ただこれは、かなり労力が要る仕事の割には、あまり新しい発見が期待できない実験で、なかなかポストドクや博士課程の学生等に任せることは難しかったのですが、ちょうどその時、薬学部4年生の山市君が研究室に来てくれて、4年生であれば必ずしも研究成果をきちんとした論文にまとめる必要もないということもあり、やってみようことにしました。

実験的にはなかなか大変な作業だったので、すが、思いの外順調に仕事は進みまして、半年程で断片は2つのまとまりにまでなりまし

た。ただそこからなかなか進まなかったのです。そのうち、山市君がおかしなことを言いだしまして、つまり、腸炎ビブリオのゲノムが2つの輪っかになってしまおうということです。それまで細菌のゲノムは、1個の環状染色体からなるというのが常識でしたので、それはおかしいと伝えやり直してもらったのですが、やはり何度やっても2つの環状染色体になってしまいますとのことでした。で、そこまで言うのであれば、もし染色体が2つ存在するのであれば、酵素で切らなくても電気泳動で2つの染色体が観察できるであろう、ということとで酵素で処理することなく流してみますと、見事に2つの染色体が観察されました。この結果を見て、これは信じざるを得ないということで、これにいくつかの実験を足して論文を作成し1999年に論文発表しました。その後、当時博士課程の学生であった岡田君が腸炎ビブリオ以外のいろいろなビブリオ属菌についても調べてくれて、結果的に2つの環状染色体からなるゲノム構造は、腸炎ビブリオだけでなくビブリオ属細菌全体に共通の性状であるという成績が得られました。

後年、細菌のゲノム解析が可能となり、世界中でさまざまな細菌のゲノム解析が行われ



飯田博士の研究論文と解析された腸炎ビブリオの全ゲノムレポート

た結果、私たちのビブリオ属菌のゲノムが2つの環状染色体からなるという結果が確認されただけでなく、細菌のゲノムは1個の環状染色体のみから成るのではなく多様性があるものであるということがコンセンサスになっていきました。私たちの研究は、細菌のゲノム構造がそれまで考えられてきた以上に多様であるという概念の確立に寄与できたと考えています。

2000年頃から日本でもゲノム解析が可能となりました。当初、細菌のゲノム解析を行うには莫大な費用と労力が必要でしたが、腸炎ビブリオもゲノムプロジェクトの対象菌種に選ばれ、私たちは2003年に腸炎ビブリオの全ゲノム配列を報告することができました。もちろん、どんな生物であっても、その全ゲノム情報を解読すればいろいろなことが明らかになってきますが、私が腸炎ビブリオのゲノム解読を行うにあたり特に興味があったのは、腸炎ビブリオのヒトに対する病原性についてでした。腸炎ビブリオは1950年に発見されて以降、ヒトにどうやって病気を起こすかについてずっと研究が行われてきましたが、その詳細はよくわかっていませんでした。ところがゲノム解析を行った結果、この菌が3型分泌装置を持っていることが明らかになりました。3型分泌装置というのはグラム陰性細菌がもつ蛋白質分泌装置で、自身の蛋白質を菌体外に分泌するのみならず、標的である真核細胞の細胞内に直接打ち込むことのできる装置です。3型分泌装置は赤痢菌やサルモネラ、あるいはO157等、ヒトの重要な病原菌の病原因子として知られていました。ちなみにコレラ菌を含めビブリオ属細菌の中に3型分泌装置をもつものがあると

いうのは私たちの報告が初めてでした。その後、腸炎ビブリオの3型分泌装置について詳細な研究を行った結果、腸炎ビブリオが持つ3型分泌装置がこの菌が下痢を起こす活性に重要であり、また、ヒトへの病原性に必須であるということを明らかにすることができました。腸炎ビブリオと同じビブリオ属細菌であるコレラ菌は、毒素でヒトに病気を起こすということが知られていましたが、3型分泌装置がヒトに病気を起こすのに重要であるという知見はビブリオ属細菌の中では全く新しい概念であり、現在、世界中の研究者がこの分野に参入してきているところです。

それ以降は、私の研究室のメンバー、特に現准教授の児玉君と助教の松田君が中心になって、分子レベルで質の高い研究をしてきてくれています。これまでの研究で、腸炎ビブリオの3型分泌装置のほぼ全容を解明できたのではないかと思います。3型分泌装置の発現制御機構についても分かってきています。これは腸炎ビブリオ感染症の新規治療法にもつながる知見です。また、腸炎ビブリオの3型分泌装置から分泌される分子がヒトの細胞・組織にどのような作用を及ぼすかについても明らかになってきています。生化学的・細胞生物学的にも興味ある知見が得

られてきています。このように私たちの研究は、ビブリオ属細菌の病原性研究にブレークスルーを与えたものと考えています。

今回、これまでの私の研究業績を振り返りまして、この度の受賞は本当に私だけの力ではなく、学生さんを含む多くの方々のお力によるものであると実感いたしました。今回の受賞はこれまで一緒に仕事をしてきた多くの方々と分かち合いたいと思います。

現在、基礎研究の現場の状況は厳しいものがあります。特に若い研究者が腰を落ち着けてじっくりと研究に専念するというのが難しい時代になっています。今後、もちろん私自身もまだまだ研究を続けていくつもりですが、それと同時に、若い研究者や研究者の卵たちが活躍できる環境というものを、すこしでも作っていくということに尽力していきたいと考えております。

最後になりましたが、今回、野口英世記念医学賞にご選考いただきました木下タロウ先生はじめ本賞選考委員の先生方、本当に素晴らしい授賞式をご準備いただきました竹田美文理事長はじめ公益財団法人野口英世記念会の方々、ならびに猪苗代町の皆様に心より感謝を申し上げます。また、本賞にご推薦いただきました千葉大学真菌医学研究センター長

の笹川千尋先生、笹川先生には研究の面でも大変お世話になっておりますが、当日はお忙しい中遠路授賞式にお越しいただきまして厚く御礼を申し上げます。さらに、これまで一緒に仕事をさせてきていただきました多くの方々、特に恩師の三輪谷俊夫先生、本田武司先生、諸先輩方、元および現同僚の皆様にごの場を借りまして厚く御礼申し上げます。またこの機会に、これまで私を支えてくれた家族に感謝したいと思います。

野口英世記念会のこれまでの先見性のあるご活動に敬意を表しますとともに、今後のより一層のご発展を祈念いたします。この度は誠にありがとうございました。



記念講演会



野口英世記念奨学生

野口英世記念奨学生制度は、有為な人材を育成し、良き社会人として世に送る目的で、高等学校に在学する間の学資金の給付を行う制度です。
令和2年度の第62期奨学生は、奨学生選考委員会の推薦を受け、10名に決まりました。新しい奨学生が、それぞれのすばらしい夢を綴ってくれました。

「志」

猪苗代町立猪苗代中学校

いちのせ
一ノ瀬 葵



学ぶ目的を考え、忍耐強く努力し、支えてくださる方々への感謝の心を持ちながら、正直に将来に向かっていきたいです。そして、「志を得れば再び此地を踏まず」という野口英世さんが家の柱に刻んだこの言葉のように、強い「志」を持ち、学び続けたいです。

「将来の夢」

会津若松市立一箕中学校

くさか
日下 紗瑛



かけは、看護の大学に通う姉の影響でもありますが、事件や事故で真っ先に処置する看護師さんの姿をニュースやテレビで見て病院はもちろんのこと病院外でもいつ何時でも人を助けることができる人になりたいと思ったことです。
将来は、看護師の資格を取得し、福島県に戻り、地域医療に貢献したいと思います。高校の3年間は、勉強と部活を両立させ、自分の夢の実現のために一心不乱に努力していきたいと思っています。

今、私は高校という新しい環境で学ぶことをとても楽しみにしています。なぜなら、高校へ進学すれば、新しいことに会えると思うからです。

私は将来、医療の仕事に就きたいと思っています。そして多くの人々の役に立つことをしたいです。そのためには、たくさんのことを学び、知識がある人にならなければいけないと考えます。だから、高校や大学で精一杯学び、知識をつけたいです。また、高校で行われる行事や部活動にも、積極的に取り組み人としても成長していきたいです。

この度は、野口英世記念奨学生に選考していただきありがとうございます。

私の将来の夢は看護師になることです。きつ



「野口英世から学んだこと」

猪苗代町立猪苗代中学校

後藤 ありす



私には将来の夢があります。それは、歯科医師になることです。

なりたいと思い始めたのは、小学生の頃に歯の治療を受けた時です。その時に私は、歯科医師の大変さや難しさを知り、興味を持つようになりました。

将来の夢である歯科医師になることを叶えるために、私は努力しています。これは、野口英世から学んだことです。野口英世は、目標を決めると、その目標に向かってひたむきに努力する人でした。私はそんな野口英世から、努力することの大切さを学びました。だから、私も目標を決め、その目標に向かってひたすら努力するようにしています。そして、高校生活でも、今までのことを続け、更に新しいことに挑戦し、絶対に諦めないをモットーに、勉学に励んでいきたいです。

「夢の実現のために」

会津若松ザベリオ学園中学校

佐藤 みこの



私は将来、人を助ける仕事がしたいと考えているため、国立大学へ進学し夢を実現できるように頑張りたいと思います。そのために私は、高校在学中に一生懸命に勉強に励み、先生方や友人を通して人を助けることや協力する大切さを今以上に学び、いかしていきけるように努力していきたいと思います。

また、高校では夢のはばを広げるために、ボランティア活動や部活などのさまざまな活動に積極的に取り組みたいです。なぜなら、たくさんの人とかかわりをもつことによって今までとは違った考えが生まれ、将来に大きく影響すると思ったからです。

私は高校に進学してから多くのことを経験し、よりよい将来になるように悔いを残さず努力していきたいと思います。

「将来の夢」

会津美里町立高田中学校

白井 恒成



私は野球部に所属していましたが、特設陸上部員として陸上の朝練に参加していました。

中一の冬、父が病で亡くなり将来が不安でしたところ、中二の秋に駅伝選手に選ばれ、東北大会優勝という経験をさせてもらい心が軽くなりました。中三では個人種目の千五百メートル走で全国七位入賞。駅伝でも全国七位入賞でき、今は走れることがとても嬉しくて楽しいです。こんな思いができるのは自分のことを指導して下さった顧問の先生や、身体のケアをまさに親身になって施してくれた母や周囲の方々の応援のおかげです。

これからの私はその恩に報いる為、どこまで速く走れるようになるか極限までチャレンジします。そして将来は先生や母のように、人に喜んでもらえる有能な人物、指導者になって子供達の育成に携わっていきたいです。

「将来の夢に向かって」

田村市立常葉中学校

樽井^{たるい} 友里愛^{ゆりあ}



この度は、野口英世記念奨学生に選出していただきありがとうございます。

私の将来の夢は、医師になることです。中学校で行われた職場体験で、町内の医院で体験したことがきっかけとなり、私は医師を目指すようになりました。職場体験では、実際の診療の場に立ち会わせていただいたり、院長が若い頃に先輩医師から厳しく指導された話を聞いたりしました。医師としての心がけや厳しさ、地域の皆さんとの交流について教えていただきました。地域に配慮した診療ができる医師になりたいと思いました。

高等学校では、奨学生である自覚と誇りをもって精一杯勉学に励みたいと思います。また、いつも私を支えて励ましてくださる多くの方々への感謝を忘れないようにしたいです。自分の将来の夢に向かって、日々学び続けて、夢を現実に行きたいです。

「将来の夢」

二本松市立二本松第三中学校

橋本^{はしもと} 日菜乃^{ひなの}



私の将来の夢は外国語教師です。私がこの夢を持ったきっかけは日本人が日本語で話さず、あたりまえのように英語で外国人と楽しそうに話していたところを見てかっこいいと思ったからです。そこから英語だけでなく、世界の語学に興味を持ち、国際的なことに関心を持つようになりました。

私は、言葉が違うため心が通わないと決めつけて壁をつくるのではなく、お互いが言葉や文化を尊重し合い、国境を越えて平和を築くことが大切だと思っています。英語はもちろん、韓国語や中国語、さまざまな言葉を学び、視野をさらに広げたいです。

そのために、高校で英語だけでなく他の教科の勉強も熱心に取り組む、大学に進学して夢を叶えられるように努力したいです。

「私の夢に向かって」

猪苗代町立吾妻中学校

増子^{ましこ} 香奈^{かな}



私の夢は、化粧品開発者になって、使った人が笑顔になるような素晴らしい化粧品の開発することです。

そのために私は、葵高等学校へ進学し、理系科目を中心に学びたいと考えています。そして特に化学に力を入れて学習し、将来の夢につながる力を身につけたいと思います。

また、人数が多い高校なので、多くの人と触れ合える良いチャンスだと思っています。たくさんの方がいる場だからこそ積極的に物事に参加し、人前で自分の考えや思いを発信する力、伝える力を身につけていきたいと思っています。

そのために今から「私の夢に向かって」を motto に一日一歩ずつでもいいから努力をし、成長していけるようにしたいです。そして、私の夢を叶えるために一生懸命突き進んでいきます。

「高校生活で挑戦したいこと」

郡山市立郡山第二中学校

三浦 みうら
マヤ



私が高校生活で頑張ろうと思っていることは大きく分けて二つある。

一つは勉強だ。高校生が勉強に励むことは当然のことではあるが、私はその中でも上位の成績を取り続けたいと考えている。そして、第一志望の国公立大学に合格したい。なぜなら将来、研究、開発を行い、結果を出すことが私の目標だからだ。具体的に何の研究をするか定まっていはいないが、今はフリーエネルギーの実用化に向けての研究や、ある植物や生物の細胞の機能を他の個体に応用させることといった物理、化学、生物に興味があるので、それに関連した道へ進むだろう。

二つ目は部活動だ。前述したことを達成するため、学校の勉強だけでなく、物理部に入学して知識を蓄えたり実験を行ったりしようと考えている。また、科学の甲子園に出場して良い結果を出したい。高校生活が楽しみだ。

「私の夢」

須賀川市立第二中学校

和田 わだ
拓真 たくま



私の夢は、医師、特に病理医になることです。病理医は直接患者に関わることが少ないのですが、病気の原因を見つけ、裏から支える重要な仕事です。私は患者の治療に役に立つ存在として、誰からも認められるような病理医になりたいと思います。

中学校では、一年生の時に医工連携人材育成事業に参加し、模擬手術や一連の仕事の体験をしました。二年生の時は、職場体験で病院において仕事以外の人との関わりや、精神面でも勉強になりました。また、表向きの仕事だけでなく、裏の仕事などを知り、改めて関心をもめました。私はこの体験を通して、自分の夢の実現に向けてより一層努力し、必ず医師になろうと決意しました。そのため、高校では勉強への取り組みを工夫し、医大への合格へ向けて精進し、人として成長し、自分の行動に責任をもてる医師になります。



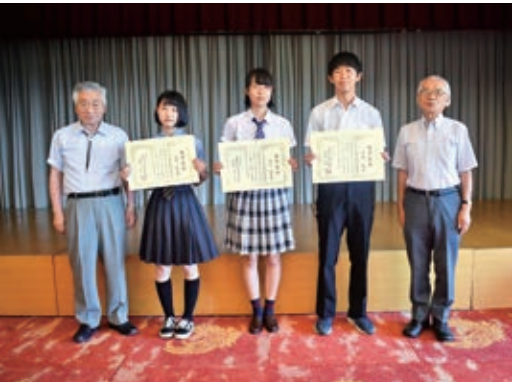
令和元年度奨学生証贈呈式

令和元年8月3日に、令和元年度奨学生証贈呈式を「猪苗代観光ホテル」で行いました。

第61期奨学生5名中、出席した3名に、竹田美文理事長より奨学生証が贈呈され、激励の言葉がかけられました。

第61期奨学生（出席者のみ）

- 安藤 瑠（福島県立安積高等学校）
- 井上 真由（福島県立安積高等学校）
- 長井 瑠南（福島県立葵高等学校）



奨学生証を受け取る61期奨学生



近況を報告する井上真由さん

第57回奨学生懇親会

令和元年8月3日に、第57回奨学生懇親会を「猪苗代観光ホテル」で開催しました。

一、出席者（14名）

杉本 富夫（1期）	花見 幸作（2期）
小野 秀幸（5期）	加藤 次郎（8期）
本多香津子（11期）	渡辺 利行（13期）
神田 和幸（18期）	長濱 貴志（26期）
松川 未悠（59期）	秋澤 愛呼（60期）
橋本 悠人（60期）	安藤 瑠（61期）
井上 真由（61期）	長井 瑠南（61期）

記念会 竹田 美文・八子 弥寿男・石田 寛人

二、懇親会

（一）一部

- ア 開会の辞
- イ 挨拶 理事長 竹田 美文

（二）二部

- ア 挨拶・乾杯
- 奨学生代表 杉本 富夫
- イ 会食・懇談
- ウ 自己紹介・近況報告
- エ 松亭・小林栄ふるさと記念館の見学
- オ 閉会の辞



松亭・小林栄ふるさと記念館を見学

第25回野口英世博士顕彰記念少年科学賞

野口英世博士生誕の地、猪苗代町の小中学校から作品を募集する野口英世博士顕彰記念少年科学賞は第25回を数えました。
今回は小学校207点、中学校19点、計226点の研究作品の応募がありました。

本年度の入賞作品は左記の通りです。おめでとうございます。

最優秀賞

どうして長瀬川は赤くなるの？パート3 ～川の石を調べてみた～
だんご虫の研究

吾妻小学校 5年 鈴木理心
東中学校 3年 渡部菜々子

優秀賞

アリさん、おやつはどれが好き？
ストローとチューブのけんきゅう ～どこまですえるのか？～
ありのけんきゅうだい3だん！ありはどんなにおいがにが手なんだろうか

長瀬小学校 1年 高梨 紗那
翁島小学校 2年 喜多見七葉

なぜ水はへるのだろうか

花火はなぜおくれて聞こえるのか

私の家は大丈夫？Part2 ～土砂災害について～

ペットボトルで1番長く冷やせるのは？

塩害が植物にもたらす影響を探る！

佳作

いなわしろこのすなのちがい

カナヘビかんさつ日記

インクの色のおしぎ

花火の色のおしぎ

野菜は浮く？？？～水に浮く野菜はどんな野菜だろう？～

プラスチックの研究

塩水で野菜は育つのか？

色で温度は変わるのだろうか？

色で変わる？植物の育ち方

木炭以外に勢いよく強く燃える燃料はあるのだろうか

骨と成分の関係

猪苗代中学校	2年	二瓶 莉奈
猪苗代中学校	1年	星 凱斗
吾妻小学校	6年	杉田 豊歩
千里小学校	6年	荒川 昭啓
吾妻小学校	5年	杉田 結大
吾妻小学校	5年	渡部 結大
緑小学校	4年	須田 斗翔
猪苗代小学校	4年	千葉 杏美
猪苗代小学校	3年	五十嵐 諒
翁島小学校	2年	岡部 悠聖
翁島小学校	1年	渡部 紘駕
猪苗代中学校	3年	高木 沙也
猪苗代中学校	2年	西村 百叶
猪苗代中学校	1年	鈴木日奈子
猪苗代小学校	6年	喜多見叶暖
猪苗代小学校	4年	安藤 洋輝
千里小学校	3年	吉田 真望
猪苗代小学校	4年	安藤 洋輝
猪苗代小学校	3年	吉田 真望



東中学校 3年 渡部菜々子さん



吾妻小学校 5年 鈴木理心さん

野口英世博士顕彰記念事業

野口英世博士生誕の地である猪苗代町では、町内の小・中学校の児童生徒が「二十一世紀の国際社会において野口英世に続く日本人」になることを期待し、スポーツや文化事業を通じ、野口英世の精神である「忍耐・努力」を培うことを目的にした種々の顕彰記念事業を行っています。



中学校球技大会 2019年5月12日



小学校体育祭 2019年9月12日



小学校スキー大会 2020年2月21日



小中学校音楽祭 2019年10月1日

第58回野口英世博士顕彰記念作文コンクール

野口英世のふるさと猪苗代町の小学校4年生と中学校2年生を対象に募集を行う「野口英世博士顕彰記念作文コンクール」の授賞式が11月9日に行われました。

郷土の先輩でもある野口英世への想いや、野口英世の生き方から学んだことを書いた作品が多く寄せられました。授賞式では特選に選ばれた猪苗代小学校4年小磯大夢さんと猪苗代中学校2年東條雄途さんが受賞作文を朗読しました。

特選

野口英世とぼく

猪苗代小学校 4年 小磯 大夢



口英世の似ていない点や共通点を書いてみようと思いました。

ぼくは、この世に生まれてまだ十年しか生きていません。そんなぼくですが、この夏、ぼくと野

まず、似ていない、真ねできないと思ったところは、英世が小さいときに大やけどをして、大変な手術にたえたことです。ぼくは、この十年、生まれてから一度も大きいけがをしたり、病気になったりしたことはありません。何事もなく元気に毎日をすごしてきました。しかし、英世は一才半の時から左手を自由に使うことができず、毎日大変だったと思います。高等小学校四年生（十五才）の時に受けた手術も、今とはちがつて、ますいをしてても気を失いそうになるくらいはげしい痛みだったそうです。ぼくは、英世みたいな根性も勇気もないので、大手術を最後までがんばった英世はすばらしい男だと思います。

〈小学校の部・4年生〉				〈中学校の部・2年生〉			
特選	猪苗代小学校	小磯	大夢	特選	猪苗代中学校	東條	雄途
金賞	千里小学校	眞島	紗矢	金賞	吾妻中学校	佐藤	爽乃
	猪苗代小学校	五十嵐	梓心	銀賞	東中学校	國井	結以
	長瀬小学校	吾妻	佑彩		猪苗代中学校	佐藤	亜珠
銀賞	吾妻小学校	小椋	琉央				
	翁島小学校	鬼多見	明奈				
	緑小学校	小檜山	悠斗				

次に、英世とぼくの共通点だと感じたところは、目標となる人がいることです。英世は自分の手術をしてくれた渡部先生を目標として、医者になるために一生けん命勉強しました。ぼくは、幼稚園のころから、お父さんがやっていたバスケットボールを見ていて面白そうだと思い、一緒にバスケットをしています。目標としている選手は、日本です。

初めて一億円プレーヤーになった、千葉ジェッツの富がし勇樹選手です。ポイントガードという同じポジションをしているので、ぼくは富がし選手のプレイを見て真ねしています。目標としている人がいると、少しでも上手になりたいという気持ちを持てるし、がんばる力が強くなると思います。だから、英世もきつと日本から遠くはなれた場所でもがんばれたのだと思います。

二つ目の共通点は、いろいろな人に支えられているということです。英世は世界で有名になるまでに、お母さんやお姉さん、学校のお金を出してもらった小林先生、手の手術をしてもらい、英世が医学の道に進むきっかけとなった渡部先生、医者になる試験のときにお世話になった渡部先生、アメリカで一緒に研究したフレクスマー博士、奥さんのメリーさんや友達など、たくさんの人に応援してもらって、今のぼくが知っている野口英世になったと思います。ぼくは、お母さんやお父さん、おばあちゃんにご飯を作ってもらったり、勉強を

手伝ってもらったり、バスケットに行くときの送り迎えをしてもらったりしています。だから、もつとがんばって練習して、チームを引っばっていき

るようになります。これからもぼくもたくさんの人に出会いたいと思いますが、その人達に応援してもらえるように、野口英世が残した言葉「目的（バスケット選手になる夢）」、「正直（みんなに信じられる男になる）」、「忍耐（こつこつ練習し、最後まであきらめない）」を大切にし、努力していきたいと思っています。

特選

野口英世博士と僕

猪苗代中学校 2年 東條 雄途



野口英世博士は一八七六年十一月九日に現在の

猪苗代町に生まれました。彼は後に医学の研究者として世界に名を馳せ、現在の日本でも千円札のモデルとして全国的に認識されています。

僕たちの町の学校には野口博士が残した遺訓の「目的・正直・忍耐」が目標としてかけられており、その他にも野口博士は様々な言葉を残してきました。

僕はこの作文を書くにあたり、野口博士のことを調べるうちに、野口博士が残したたくさんの言葉を知りました。その中でも、僕は三つの言葉が心に残りました。

一つ目は、「絶望のどん底にいますと想像し、泣き言をいって絶望しているのは、自分の成功を妨げ、そのうえ、心の平安を乱すばかりだ。」です。

野口博士は小学校で、一歳の時に左手に負った火傷が原因でからかわれたりいじめられたりして、小学校に行けなくなったそうです。その後、野口博士は母シカにさとされて勉学にはげみ、学校ではいつも上位の成績をとるようになったそうです。この言葉は野口博士のそんな経験から出た言葉だと思いました。

僕は難しいことをするとよくくじけて諦めてしまったり、失敗したときのことを考えてしまったりする前からやめてしまったり、実際に失敗してもう一度とやれないときがありました。しかし、この言葉を知って、失敗してもくじけずに諦めない

でまた立ち上がり、何度も挑戦することが成功するのにも重要なことだと分かりました。

二つ目は、「一番肝心なのはあきらめないということだ。どん底からはい上がるんだ。」です。

野口博士は南米での黄熱病研究で、病原体の特定、そしてワクチンの開発、それによる南米での黄熱病の収束に成功しました。しかし、その研究結果が誤りだと否定されたり、さらにその後にはフリカのセネガルで発生した黄熱病に野口博士の開発したワクチンが効かず、特定したはずの病原体も発見されないとの報告があったりしました。その時の野口博士の落胆は計り知れないものだったと思われます。

しかし、野口博士は諦めませんでした。その三年後、自らもフリカのガーナに赴き、黄熱病の研究を始めました。結果としては、自らも黄熱病にかかり志半ばで倒れてしまいましたが、黄熱病を収束させるという目的を最後まで諦めない野口博士の姿に感銘を受けました。

三つ目は、「ナポレオンは、夜三時間しか眠らなかった。彼になしえられる努力が、自分になしえられぬはずがない。」です。

野口博士は黄熱病の研究をする前にも、別の微生物やそれにより引き起こされる病気の研究をアメリカのロックフェラー研究所で行っていました。ですが、そこでの野口博士の仕事ぶりがもの

すごく、この言葉の通り野口博士は夜に三時間しか眠らず、仲間の研究員からヒューマンダイナモ（人間発電機）とあだ名され、「ノグチはいつ眠るのか?」「日本人は眠らないのか?」とうわさされるほど。日本でも医師になるための試験を人の何倍もの勉強量で差をつけ合格した野口博士。そんな自らの経験から言える言葉だったのでしょう。

僕は、はつきり言って努力することが苦手で嫌いです。自分が他人と実力などで差が出て才能や環境のせいにしてしまいます。ですが、努力すればそれらの差もくつがえすことができるということはこの言葉と当時の野口博士の様子から実感しました。

改めて野口英世博士の一生や言葉、遺訓を知ると、やはり野口博士は努力の人だったと感じました。貧しさや差別の中、人一倍努力し、人を救ったり医学の発展に貢献したりする野口博士の姿を見て、自分ももっと努力し、野口博士のようにはいきませんが人の助けになれたらいいなと思いました。

これからも野口博士の言葉を胸に刻み、頑張っていきます。



猪苗代中学校 2年 東條雄途さん



猪苗代小学校 4年 小磯大夢さん

野口英世記念館三たび

元フアルコバイオシステムズ遺伝子事業部長・元日水製薬学術課長

小路 滋



野口英世の生家を初めて訪れたのは1965年四月初旬だった。前年秋にはアジア初のオリンピックが東京で開催されていた。

その頃大阪の府立高校生だった私は二年生の夏休みに実施される修学旅行で、生物研究部（クラブ活動）の先輩たちが皆参加していた尾瀬に行けることをずっと前から楽しみにしていた。しかしオリンピックを控え交通機関の混雑や宿泊施設の逼迫を避けるという配慮からかその年だけ三年生になる前の春休みに延期されることになって、春の雪深い時期の尾瀬行きは無理との判断で実施コースから除外されたのである。

その高校は当時の公立校としては珍しく制服も校則もなく、“自由、自治、創造”を校是としており、修学旅行（正式名は研修旅行）は全員一律のお仕着せではなく、東北から南九州まで八つのコース（班）から希望する班に参加するという方式だったのだが、尾瀬コースの中止は仕方ない事情からとはいえ残念の極みであり、いっそ旅行参加を辞退しようかと思ったほどだった。結局思い直して代

わりに選んだのが東北コースで“裏磐梯班”と名付けられたその一行数十名は、大阪から国鉄を乗り継いで岩手県の一ノ関駅まで行き、そこから福島県の会津若松に至る四泊五日の行程だった。もはや当時の資料がないため確かめようがないが、厳美溪―中尊寺―松島―青葉城公園―五色沼―野口英世生家―鶴ヶ城、を貸切バスで巡る旅だったと思う。ただし、中尊寺の金色堂は大規模修復中で見られず、五色沼は直前の大雪に道路の除雪が間に合わず、当日朝になって中止と聞かされたのを覚えている。一方、野口英世生家の印象はというと、幼児期に左手に大火傷を負ってその後の彼



野口清作がやけどを負った囲炉裏



はじめて訪れたころの生家

の一生の運命を決めた囲炉裏を見たこと以外、特別の印象は残っていない。

次に少し時間を遡って1950年代後半を過ごした小学校時代に戻る。

その頃住んでいた滋賀県大津市の小学校では授業以外の課外活動として幾つかの役割分担（クラブ活動のようなもの）があり、自ら希望したのかたまたま割り振られたのかは記憶にないが、“図書

係”を担当していた。昼休みや放課後には、二つの教室を充てた図書室で蔵書整理や生徒への貸し出し業務に携わっていたのだが、当然の成り行きとして図書室の本は読み放題という役得に与れたのは幸運だった。

神話や童話それに伝記を好んで手当たり次第に読んだものだが、“エベレスト初登頂”のエドモンド・ヒラリーとテンジン・ノルゲイ、“南極点初到達”のアムンゼン、“日本初の南極探検隊長”白瀬矗、“マナスル初登頂の日本登山隊長”横有恒、“三重苦の聖女”ヘレン・ケラー、“奴隸解放の父”リンカーン、“愛と科学の母”キュリー夫人、“密林の聖者”シュバイツァー、そして多くのハンディキャップや困難を並外れた努力によって克服し“偉大な細菌学者”となった野口英世の物語に強い感銘を受けた。小学校から中学校時代には“最も尊敬する人物の名前は？”と聞かれることがよくあったが、その問いには必ず“シュバイツァー”と答えていた。

“ランバレネにおける外科医としての診療活動”

に対して1952年のノーベル平和賞を受賞したシュバイツァーは、文明から遠く離れたアフリカの貧しい恵まれない人々を、キリスト者として、医師として博愛の精神で献身的な活動により永年助け続けた英雄であり、その物語は年若い読者の尊敬と憧れを掻き立てるには十分過ぎるものだった。当時の小中学生の多くが、この問いに同じ名前を挙げていたように思う。

野口英世の伝記にも心からの感動を覚えた。幼少期には心ないいじめにもめげず優秀な学業成績を取って見返すところ、アメリカに渡った後、日本人は一体いつ眠るのか？と呆れられるほど日夜実験に打ち込み次々と成果を挙げたところ、一度だけの凱旋帰国の際は恩人たちへの感謝を直々に伝えるとともに、常に限らない愛情で励まし支え続けてくれた母への恩返しを果たしたところ、など幾分の誇張があるにせよ感涙無しに読み続けることはできなかった。

ところである団体による調査を基にした“児童が選ぶ伝記の人気ランキング”では、21世紀に入るとヘレン・ケラー、ナイチンゲール、マザー・テレサがトップ3にランクされているらしいが、比較として示された1970年代後半の同様の調査では野口英世、エジソン、ヘレン・ケラーがトップ3を占めていたことから20世紀後半には野口英世が伝記物語の代表だったことに間違いはない。

最も尊敬する二人の偉人、ともに医師として同時代に生きたシュバイツァーと野口英世が直接会ったことがあるのかどうかは知らないが、シュバイツァーはずっと活動の場としていたランバレネ（ガボン）、野口英世は黄熱病の研究に赴いたアカラ（ガーナ）と、同じアフリカでその生涯を閉じたのも不思議な一致点と言える。

後年、野口英世については渡辺淳一の「遠き落日」、シュバイツァーについては寺村輝夫の「アフリカのシュバイツァー」を読んで、それまで美談としてのみ語られることの多かった伝記物語には描かれていない人間としての弱点や欠点などを知った後も、小学生の頃に読んだ物語への感動が減じることなく尊敬する人物であり続けた自分の経験から、児童に読ませたい（読みたい）伝記には今後もぜひ残り続けて欲しいと思う。



寺村輝夫『アフリカのシュバイツァー』



渡辺淳一『遠き落日』

ここからは社会人時代に時間を進める。

三月も後半に入って大学の卒業式が終わったのに未だ将来の進路に迷っていた1974年春、たまたま求人広告を見つけたのは、細菌学の実験によく使用していた粉末培地（各種細菌の増殖に必要な種々の成分を配合し、水に溶解して高圧蒸気滅菌すればで上がるインスタンスープのようなもの、粉末寒天が加えられていて高圧蒸気滅菌後に冷ませば固まるタイプもある）の製造販売会社で、何もせずにいるよりは、と思いあまり深く考えずに四月一日から新卒社員として就職し、そのまま20年近く勤務することになった。

何度かの異動を経て九年後の1983年、研究開発部に所属していた頃、現在野口英世記念会理事長（当時は大阪大学微生物病研究所から東京大学医科学研究所に教授として移られたばかり）の竹田美文先生に初めてお会いする機会を得た。それはスイスの会社が製造するウイルスを始めとした微生物検査試薬の輸入販売を行うための助言と橋渡しをしていただくことを話し合う場でのことだった。

2001年に国立感染症研究所長をもって永年にわたる国家公務員の職を退かれた竹田先生が、その後大学での教職及びインド感染症共同研究センター長としてのご活躍を経て野口英世記念会に移られたのを知り、2014年11月に高校の修学旅行以来ほぼ半世紀ぶりとなる訪問を思いつき訪

れた。

郡山駅で磐越西線に乗り換え磐梯熱海駅、中山宿駅を過ぎてトンネルを抜けた途端、季節が一変したかのように雪国の景色になったのが印象的だった。

猪苗代駅前からバスに乗り10分余りで記念館前へ。半世紀前の初訪問時の記憶はほとんどない中で、想像していたよりもいかついグレーの建物が眼前にあった。足元が滑るのを気にしながら歩を進めると建物にすっぽり覆われるように平屋建ての古民家が垣間見え、それが博士の生家であることを思い出した。



二度目に訪れた野口英世の生家 2014年11月15日



リニューアルオープン予告看板



リニューアル前の館内の様子

展示室内には膨大な写真やパネル、顕微鏡をはじめ実際の研究に使われた種々の機器がガラスケースの中に収められていて見応えがあった。ところでこの二度目の訪問は、到着して予告看板を見るまでそうとは知らなかったのだが記念館リニューアルオープンの約半年前だった。

リニューアル後にはいずれ時を経ずに再訪問を
と考えていながらなかなかその機会がなく、やっ
と実現したのが昨年（2019年）10月末だった。

今度は前夜遅く猪苗代駅に到着して近くで一泊
し、翌朝記念館に到着。リニューアルでいかに変
わったかをゆっくり時間をかけて見ることででき
た。

とにかく驚いたのは前回とまったく別の施設に
来たような印象で、リニューアル前のものが20世
紀風のオーソドックスな博物館だったなら、リ
ニューアル後はまさに21世紀型？の斬新な博物館
である。博物館と言うよりテーマパークと呼ば
いくらいだ。

展示内容を詳細に述べてしまうと、これから初
めて訪れる人の新鮮な驚きや楽しみを些か減じる
ことになるので控えるが、以前と違って館内の照
明は一見暗く感じるほどメリハリをつけて展示物
に集中できるように工夫されていること、一般に
は馴染みの薄いと思われる細菌学の実験がゲーム
感覚でバーチャル体験できること、映像ではなく
頭や手をリアルに動かしながらしゃべる野口英世
のアンドロイドに会えること、など想像を超える
楽しい仕掛けが満載されていた。



館内にある野口英世のアンドロイド

前述の通り、以前は偉人の伝記で人気ランキン
グのトップに位置するほど広く読まれていた野口
英世伝が、21世紀に入ってからリンカーン、ベープ・
ルース、一休さん、二宮金次郎らとともに上位10
圏外に去ったと聞く。

加えて、日本の紙幣の代替わりで千円札の肖像
が2024年度には野口英世から同じ細菌学者で
ある北里柴三郎と交代するそう。聖徳太子・伊
藤博文・夏目漱石・野口英世、と続いてきた千円
札の顔に細菌学者がまた連続して採用されるのは
極めて珍しいことに違いないが、野口英世の顔を
目にする機会が減ればその伝記を読む児童がさら

に減ることにならないかと懸念される。

できることなら全国のすべての小学生に必ず一
度は来館してもらい、大きなハンディキャップを
背負いながら常人の何倍もの努力を重ねて数々の
業績を残した野口英世とその壮絶な生涯を知って
もらいたいと願う次第である。

第18回心の手紙コンテスト「母から子への手紙」

あなたに伝えたい思いがある



大賞のお手紙のテーマとなった家族写真を紹介する喜田久美子さん

令和元年12月1日(日)、第18回心の手紙コンテスト「母から子への手紙」の表彰式が猪苗代町体験交流館「学びいな」において行われました。当日は大賞を受賞された喜田久美子さんをはじめ全国より14名の入賞者の方が野口英世の故郷にお越し下さいました。

今年も1825編の想いのつまった手紙が全国のお母さんたちから寄せられました。各賞の表彰の後には、最終選考委員である大石邦子さんの記念講演会「母の言葉あつてこそ」が行われました。

大賞 喜田久美子さん (宮崎県)

二十五年前の写真を再現しようとは、よく思いましたね。ちよっぴりセピア色になった家族写真。紳一郎が五年生、君は三年生、文造が一年生でめぐみは三歳でした。お母さんも君達も硬い表情で写っています。

突然の君の提案でしたが、県外で働く文造も帰省して母の日の撮影に。めぐみは似た服をネットで探し、君達も工夫してあの写真の服に合わせてましたね。お母さんは二十五年前の服をそのまま着用。体型が変わらないのと物持ちがいいのを、今度ばかりは自慢できました。

ソファアに座る位置もセピア色の写真そのままに。いえいえ、紳一郎と君には愛する奥さんと子どもも加わって、ハイ・ポーズ！

出来あがった写真は、お父さんを亡くした翌年のあの家族写真と並べて、遺影と向き合うように置いています。全員笑顔です。

五年後、十年後にまた更新しましょう。そのためにみんなが健康でいなくちゃね。



準大賞 本田詩織さん



日本郵便賞 宅見春美さん



副賞を手にする喜田久美子さん

準大賞 本田詩織さん（富山県）

あなたは一歳一ヶ月。ママは抗がん剤を始めて十六日目のこと。あなたが深く寝入るのを待ち、覚悟してシャンプーを始めました。髪は抜けても抜けても絡みつき、気が付けば三時間以上シャワーを浴びていました。それでも、湯気で曇った鏡にぼんやり映る頭は、まだ黒いように見えました。みすばらしい姿を見られませんかようにと祈りながら、忍び足で浴室を出ると、泣き声が響きました。湿った体のまま駆け寄り、あなたを抱きしめました。もしかすると、ママの代わりに泣いてくれたのかな？ 夜が明け始めた部屋で、ようやく泣きやんだあなたは私を見つめ、ニツコリ微笑みましたね。ママの頭が面白かったのかもしれないけれど、私が私であれば、何でも良いようでした。ママは、パパよりもあなたに嫌われるのが、怖かったのよ。おっぱいは片方しかなくて、今は髪までないママだけど、また朝が迎えられる幸せです。泣いてくれてありがとう。笑ってくれて、ありがとう。

日本郵便賞 宅見春美さん（兵庫県）

お米送ります。おじいちゃんの棚田米じゃないけど奮発したので美味しいと思います。

研究室に籠ってばかりでは身体が持ちません。ご飯食べて下さいね。

なんとかお父さんと二人元気でやっています。満点大仏様も大切にしてますよ。小学校の修学旅行であなたが買ってきた大仏様です。テストの前にはいつも自分のお菓子を供え手を合わせていましたね。お父さんと「すぐにあきるよ。」と笑って見てましたが、大学を受験するその日も手を合わせて出かけました。

しかし、結果は不合格。私たちは思わず大仏様に恨み事を言ったのですが、あなたは大仏様にその時も手を合わせていました。

あなたが家を離れてもう十年になります。今はお父さんが大仏様にお供えをして二人で手を合わせています。あなたの健康と、研究がうまくいきますようにと。くれぐれも身体には気をつけて下さい。そして、時々でいいのでお父さんにラインしてあげて下さいね。

子どもの成長を見守るということ

第17回 母から子への手紙コンテスト

大賞受賞者

阿部 祥子（大阪府）

専業主婦生活一年を過ぎた頃、郵便局で目に留まった「母から子への手紙コンテスト」の募集案内。もう何年も手書きの手紙など書いていなかった私ですが、今思い起こせばこの「母から子への手紙」に関しては、必然とばかりに筆がすらすらと走りしました。



受賞の喜びをお話する阿部祥子さん

娘の小学校入学を機に長年勤めていた会社を辞めるという決断を下し、子どもたちと過ごす時間を大切にする決めた私でしたが、周りから「辞めるなんてもったいない!」「また働きたくなるよ。」「後悔してない?」など言われることもしばしばあり、何か思いが燦っていたのかもしれない。今思えば、その燦りが「子どもたちには、今の私の正直な気持ちを伝えたい。思いをそのまま形に残しておきたい。」というエネルギーに変換されたのだと思います。

そういった経緯ですから、私としては思いの丈を形に残すことができた一区切りついていたところ、さらに数あるお手紙の中から大賞をいただき、猪苗代町での表彰式にご招待いただけたことは奇跡としか言いようがありません。関係者の皆様にも本当にご親切に歓待いただき、私たち家族にとって初めての東北は一生忘れない旅となりました。この身に余る光栄、改めて感謝申し上げます。



ご家族と喜びの一枚

さて、その後の私たち家族ですが、私は相変わらず「時々昼寝」を嗜む一方（笑）、子どもたちは加速度的に成長しております。一年前は「教えてあげられることがもつともつとある!」と豪語していたものの、今は「もつと」が一回に減った気がします。来年くらいには「まだある」程度、さらに数年後には「教えてあげられること、何かあるかな?」になっ

てしまっているかもしれません。でもそれが親の喜びというものですよね。

鉄棒を教えてあげているうちに、私が子どもの頃にできなかった大技を子どもができるようになっていたとき。宿題の地理のプリントを覗いてみたら、私の知らない川や平野の名称だらけだったとき。「ああ、こんなに難易度の高いことやってるんだ！」と嬉しくなります。(余談ですが、お陰さまで「猪苗代湖」は、娘が琵琶湖の次に覚えた湖になりました！漢字もバツチリです。)

そう考えると、仕事を辞めて子どもたちとたくさん時間を共にするようになってから、以前よりもたくさんの成長に気付けるようになりました。「逆上がりができた！」とか「人前で緊張せずに発表できた！」といった目に見える明らかな成長はもちろんですが、むしろそれ以外の、日常の何気ない一場面でのたくさんの成長です。

例えば上の娘はお友達の話をよくしてくれるのですが、その様子から「それぞれのお友達の性格や立場を考えてバランスよく良好な関係を築けているんだな」とか、下の息子は普段はお茶にかけてばかりいるのですが「宅配便のお兄さんやお店のお姉さんに対応するときにはきちんと敬語で話せるようになったんだ」とか。自分が忙しく働いていた頃は見落しがあった、私以外の人と子どもたちの

関係における成長です。

働いていて忙しいときでも、「見て！できたよ！」という類の、子どもたちから発信される成長には当然「すごいね」と褒めてあげていましたが、当時、果たして子どもたちが外に向ける言動や振る舞いについてまで気付いてあげられていたでしょうか。少なくとも働いていた頃の私は、例えると自分に向けられたボールを投げ返すのが精いっぱい、子どもが外に向けて投げるボールの行き先まで見てあげられていなかった状態だったと思います。

そして今、そういった子どもの「外に向けた振る舞い」に関する成長を目の当たりにする度、嬉しく思うのと同時に、親として気が引き締まる思いになります。運動や勉強に関しては「どんどん私を追い抜いて！親が教えてあげられることがなくなったらそれが一番嬉しいのよ！」なんて言って子どもたちを焚き付けているのですが、社会的動物である人間としての成長についてはそうは言っていられません。私自身も日ごろから子どもたちに恥じない振る舞いを心掛け、子どもたちと共に成長していかなければいけないし、そうありたいと思うのです。小さいことかもしれませんが、子どもが足元の落とし物に気付いて

届け出たとき、「偉かったね」とその成長を褒めてあげると同時に、自分も目に入っていたかもしれないのに行動できなかったことを反省するのです。

少し格好つけすぎかもしれませんが、私は「子どもの成長を見守る」ということは、特に人間としての成長に関しては「親と子が共に成長していくこと」だと思っています。本執筆を機に改めて、子どもたちと過ごす時間を大切に、たくさんさんの場面を共有することで、子どもたちの成長を見守っていききたいと心に誓いました。

最後に、本稿執筆のご依頼をいただいたお陰さまで、不精な私はまた一つ、日ごろの思いを整理し形に残すことができました。厚く御礼申し上げます。



副賞のお米を受け取る阿部さん

野口英世メキシコ訪問100周年記念行事

2019年は野口英世が黄熱病の研究のためにメキシコを訪れて100年目となる。これを記念して現地メキシコの社団法人日墨協会が中心となりメキシコ・日本両国において記念行事が開催された。メキシコでの行事にあわせて当記念会の森田鉄平をメキシコに派遣した。以下は、現地で行った講演会や野口英世のゆかりの地を取材した森田鉄平の手記である。

来訪100周年に向けて

1919年野口英世が黄熱病研究のため、メキシコを訪れて100年の節目となりました。当地メキシコでは、日墨協会や在留されている邦人により、この節目の年を記念するため数年前より準備が進められ、当会にも連絡いただき、情報交換をしてきました。

2018年には在留邦人であった橋本由浩氏（がんばっぺふくしま代表）の仲介により、版画家庄漫氏により野口英世の故郷である猪苗代湖の風景を描いた「氷の翼」が制作され、メキシコの野口英世地域研究センターや日墨協会、当会に寄贈されました。6月20日には駐メキシコ日本国特命全

権大使の高瀬寧閣下が当館を訪れ作品を贈呈下さいました。また同年9月にはメキシコ来訪100年記念行事のプレイベントとして、メキシコシティの日墨会館において庄漫氏とメキシコ人画家ホルヘ・オブレゴン氏の作品展とともに野口英世の生涯を紹介する展覧会が行われました。日本からも多くの方が参加され現地での機運が高められました。

100周年記念行事

2019年8月には野口英世来墨100周年を記念して開催された第6回メキシコ日系医療セミナーやメリダで行われた記念式典にニューヨーク野口英世記念会の本間俊一会長が野口の功績を紹介

介する講演やパネルディスカッションを行い、メキシコでの野口英世来墨100年が祝われました。

一方日本では、10月26日に日墨協会が主催となり、野口英世記念館至誠館において野口英世メキシコ来訪100年記念イベントが行われました。

このイベントに合わせて日墨協会和久井伸孝顧問、メキシコ福島県人会佐藤栄二会長らもメキシコから参加され、一年前にメキシコでのプレイベントに日本から参加した人たちも多く集まり、野口の来訪100年を祝いました。

会場では日墨協会、メキシコ福島県人会が調査し発見した野口来訪当時のメキシコの新聞EXCELSIOR紙、EL UNIVERSAL紙を日本語に訳したパネルが展示され、当時の野口の行動が資料か



2018 年イベント (於日墨会館)



野口英世記念館で行われた記念行事

ら明らかになりました。

また、このイベントに合わせて来訪していたホルヘ・オブレゴン氏が描いた磐梯山の油彩画や庄漫氏の版画も翌27日まで会場に展示され、来場者の目を楽しませました。

このような両国での機運の中2019年11月4日から11月11日の8日間、メキシコを訪問しました。

研究拠点・メリダ

野口英世は、1919年12月12日に黄熱病研究を行ううため、ニューヨークを出発しました。研究の先発隊としてユカタン半島に派遣されていたクリーグラ博士と合流し、12月23日にはメリダを訪れ、翌年1月までメリダを拠点に研究を行いました。

野口が到着した時には、メリダではすでに黄熱病は鎮静化していたものの、先発隊のクリーグラが研究サンプルを入手しており、エクアドルで見つけたものと同様のレプトスピラを顕出することができました。

メリダ訪問

今回のメキシコ訪問は11月4日～11月13日の行程で、そのうち現地では4日～11日までの8日間で活動しました。

野口が研究の拠点としたメリダには11月6日から8日の3日間滞在しました。メリダでの目的の一つは、野口英世の名前が冠された野口記念地



メリダで研究中の野口英世

域研究センターでの講演でした。この地域研究センターは医学研究や地域の人文・社会科学などの広い分野の研究施設として野口が研究を行った旧オーラン病院（現ユカタン自治大学）に隣接して設置されています。

講演には、研究センターの職員や医学系の学生、地域研究センターのマチルダ所長（Matilde Jimenez Coello）らもお聞き下さいました。また、当時野口が研究していた時学生であり、その後、メキシコで野口を語り継いで下さったビジャヌエバ博士のお孫さんのミゲル・ビジャヌエバ氏も駆けつけて下さいました。ミゲル氏はその後、時間をつくって下さり、ビジャヌエバ博士がかつて住んでいたお宅にもご案内くださり、博士の死後もメキシコで想いを寄せて下さっている方がいたことを感じさせてくれました。



講演を行った野口記念地域研究センター



研究を行った旧オーラン病院

メリダでのもう一つの目的は、野口英世のゆかりの地を調査することでした。先述のユカタン自治大学の建物はオーラン病院として野口が実際に研究した場所で、大通り沿いの入口に玉川大学から寄贈された野口英世の立像が建てられています。大学の事務室にいた職員の方に尋ねると、その事務室自体が以前研究室として使用していた部屋ではないかというお話しでした。また長く親しまれたオーラン病院という名前の痕跡も残っており、野口の足跡の一つに触れることができました。

メリダの街は、寺院やその前庭となる広場などが市民の憩いの場となっていて、赴きある街並み



野口の部屋からの眺め

です。その中に当時野口が宿泊したホテルが現存しています。町の中心地にあるホテル・レフォルマは野口が滞在した時にはホテル・マドリッドという名前でした。（表紙写真がホテル外観）

ホテルの従業員にきくと、通りに面した2階の角部屋「208」が野口が宿泊した部屋だと教えてくれ、案内してくれました。ホテルの顔となるその部屋は、現在はファミリールームとして、ベットが多く入っていますが昔は一等の部屋として使

用されていました。バルコニーからはメリダのすてきな街並みも見え、野口も研究の疲れを癒したことと思います。

今回のメリダ滞在中はこのホテル・レフォルマに宿泊しました。残念ながら208号室ではありませんでした。当時野口がこのホテルの廊下を歩いたり、中庭でゆっくりと時間を過ごしたことを想像すると感慨深いものがありました。

このほかメリダでは、ユカタン州の資料館や図書館で野口にかかわる資料の所在を調査しました。1920年に野口に対してユカタン大学が医学・薬学に関する博士号を授与することを決めた書類や、1961年野口英世像が寄贈された際にユカタン自治大学で発行した冊子『REVISTA DE LA UNIVERSIDAD DE YUCATAN (ユカタン大学ジャーナル)』15号などが所蔵されていることがわかりました。今回は調査が叶いありませんでしたが、



学位授与に関する書類

現地メリダでの当時の新聞記事は当時の行動を克明に表す資料となるので、今後の課題となりました。

野口がメキシコに上陸した港町プログレスソにも訪れました。現在はユカタン州カンクンなどと同様リゾート地として多くの観光客が訪れるところで、白い砂浜にトロピカルな屋根つきテーブルが並んでいました。野口はプログレスソでユカタン州の政府関係者や在メキシコ米国領事などの歓迎を受け、汽車でメリダへと向かいました。

野口メキシコシティーへ凱旋

1920年の2月1日に野口は研究を行っていたユカタン半島から船でメキシコ湾を渡り、港町ベラクルスから汽車でメキシコシティー・ブエナビスタ駅に降り立ちました。当時の新聞によるとメキシコの保健・医療関係の重鎮が歓迎の出迎えを行い、日本公使館職員や日本からの移民が野口を日本語で歓迎したことが記されています。野口は2月9日までのメキシコシティーでの滞在中、公衆衛生局や細菌学研究所などを表敬訪問や視察のために訪れ、それらの研究室で公開実験を行い、これまでの研究成果や技術を実際にみせ、医学の伝達を行いました。科学者としての野口の姿はメキシコの医学界、研究者に大きな影響と記憶を残しました。



現在のブエナビスタ駅

メキシコシティでの講演

メキシコ訪問のはじめの2日間（11月4日、5日）と、後半の3日間（9日～11日）は首都メキシコシティに滞在しました。

今回の訪問では初めに、メキシコシティにある在メキシコ日本国大使館や関係者への表敬訪問

を行いました。メキシコでの日系人の歴史に詳しく、この記念事業にあわせてブックレット『メキシコの野口英世』を著した荻野正蔵氏のご自宅を訪問した際には、明治30年に南アメリカへのはじめての殖民として実施された「榎本殖民団」にはじまるメキシコへの移民・日系人の歴史や、野口が来訪した当時のメキシコの情勢などをご教示いただきました。

メキシコシティには多くの日系人の方がおられ、そのコミュニティの交流を行っているのが、今回の記念行事の中心となっている社団法人日墨協会です。野口の来訪100周年にたいして、会員のみなさんが想いを寄せて下さり、協会の拠点である日墨会館で野口英世の生涯とメキシコでの功績をお話ししました。また、日系人の子弟が多く通う日墨学園日本コース（中山俊美校長）でも野口の生涯を紹介する授業を行いました。

みなさん野口英世については興味関心をもっており、郷里日本と現在活動されているメキシコをつなげる存在として野口英世の功績を感じて下さる方もいらっしゃいました。

また小中学生の感想を見ると、国際的に活躍した野口の姿に注目し、自らに重ね合わせる子もいて、100年前にほかの文化の地で活動を行った野口のように国際感覚に敏感な子どもたちの姿を知ることができました。

今回出会ったみなさんは100年前に訪れた野口英世に対し、メキシコと日本をつなぐ存在として認識され、今回の100年記念事業に協力くださいました。今後も両国の懸け橋となるべく、野口のメキシコでの足跡・功績を紹介していきたいと思えます。



日墨会館

野口英世記念館の動向

開館80年記念特別展

平成31年3月21日～令和元年9月12日
令和元年9月13日～令和2年3月19日

2019年は野口英世記念館開館より80年の節目の年となりました。記念館1階展示室において開館80年記念特別展として、2019年3月21日～9月12日に前期特別展「記念館を訪れた人々」を開催しました。80年の記念館の歴史とともに記念館を訪れた著名人を芳名帳や写真で紹介しました。岸信介・吉田茂らの首相経験者、湯川秀樹・大村智らのノーベル賞受賞者、西田敏行・三田佳子らの福島・野口英世にゆかりのある芸能人も訪れました。また、記念館には、今上天皇陛下をはじめ多くのロイヤルファミリーが来館されており、平成から令和への改元にあわせて写真で紹介しました。

2019年9月13日～2020年3月19日には後期特別展「あなたが訪れたのはいつの頃」を開催

催しました。80年の歴史の中で何度も記念館を訪れて下さる方がいらつしやいます。開館からの歴代の記念館と生家の姿を写真で紹介し、以前に來られた方は写真を見て当時を懐かしんでいました。



開館80年記念特別展

おもてなし企画開催

学校の長期休暇や連休に開催

学校の長期休暇、GWや紅葉の観光シーズンにあわせて、野口英世記念館おもてなし企画を開催いたしました。来館の想い出に自分で作成できるオリジナル缶バッジ製作体験や展示をより深く楽しみながら学べるワークシートなどの体験企画が子どもたちに好評で、でき上がったバッジを胸につけ、ご家族に嬉しそうに見せている姿が印象的でした。野口英世紙芝居・館内ガイドツアー・感染症の話などの参加型企画は展示を見学することにプラスアルファでよりわかり易く野口英世の当時の生活や関わった研究活動を知っていただく企画となり、参加された来館者から質問が出たり、ご自身の経験をお話し下さり、展示を身近に感じていただけました。



生家前にて野口英世紙芝居

生家登録有形文化財石柱碑除幕式 文化財登録プレート伝達式

平成31年4月28日・令和元年6月21日

2019（平成31）年3月29日に野口英世の生家が登録有形文化財に登録され、当館でも文化財登録を記念し4月28日に生家の石柱碑の横に新たに「登録有形文化財」の石柱碑を新設し、来館者にご覧いただくようにしました。



石柱碑除幕式

後日、登録文化財を表すプレートが文部科学省より贈られました。6月21日には、登録文化財プレートの伝達式を行い、猪苗代町教育委員会生涯学習課古川一昭課長よりプレートをいただきました。（裏表紙写真参照）

登録有形文化財となったことにより、野口英世の生家を将来変わることなく当時の姿のまま、当時の場所で見ることができます。

野口英世博士命日祭

令和元年5月21日



生家で行われた命日祭

野口英世の命日である5月21日に関係者により第91回野口英世博士命日祭を執り行いました。今年はいにくの空模様のため生家座敷での開催となり、野口家菩提寺である長照寺の楠俊道住職の読経に続き参加者が焼香を行いました。

今回は生家内での命日祭のため、特別に野口シカが長照寺に寄進した観音像の掛け軸が床の間に掲げられました。

救世観音祭礼

令和元年 8月9日

記念館生家エリアに祀られている救世観音の祭礼が8月9日に行われました。

この救世観音（一葉観音）は野口英世にやけどを負わせてしまった母シカの心を癒すため、洗い物をしていた小川のほとりに建立され、野口英世記念館が開館した時に開眼供養が行われました。

祭礼では、野口家の菩提寺である長照寺の楠俊道住職にお経を唱えていただき、三城潟御詠歌護持親睦会のみなさまが、中田観音の御詠歌と一葉観音の御詠歌を詠じてくださいました。



御詠歌を唱える護持親睦会のみなさん

ガーナ共和国との交流

令和元年 8月14日・令和2年 1月19日

野口英世のふるさと猪苗代町は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックのガーナ共和国の事前合宿地（ホストタウン）に選ばれました。今年もガーナ共和国との交流が図られました。ガーナのみなさんにホストタウンとなった猪苗代町を知ってもらうため、8月13日に行われたいなわしろ花火大会に、フランク・オチエレ・ガーナ共和国大使をはじめ、日本に在住するガーナ関係者が招待されました。翌14日には、野口英世記念館に視察に訪れ、生家や記念館を見学しました。初めて訪れる方も多く、野口ゆかりの品をじっくりと見ていました。

年が開け、1月19日にはガーナ共和国から野口英世記念館への贈り物として、玉座の贈呈式が行われました。令和元年10月22日に行われた天皇陛下の即位の礼にガーナ共和国代表として参列されたレベッカ・アクフォアド・ガーナ共和国大統領夫人がフランク・オチエレ駐日ガーナ大使に託され、1月19日に贈呈の運びとなりました。

この玉座はガーナ王族の象徴である王座（スツール）と伝統織物であるケンテの融合芸術として「威厳ある結束」と名づけられました。ガーナ共和国

と当野口英世記念会、そして猪苗代町、日本国との強い友情と絆が込められています。



オチエレ・ガーナ大使からの贈呈

この玉座の寄贈にあたりフランク・オチエレ駐日ガーナ共和国大使よりメッセージをいただきました。

令和2年1月18日土曜日午後1時より、フランク・オチエレ駐日ガーナ大使は、レベッカ・アクフォアド大統領夫人を代表し、ガーナ共和国のスツール（玉座）と伝統織物ケンテを野口英世博士の故郷である福島県猪苗代町に所在する野口英世記念館に贈呈します。

これらの品は威厳あるリーダーと王族の堂々たるシンボルです。特にアサンテ族の王族発祥のこの玉座は、その地域の首長・王族の継承、そしてそれに纏わる習わしを表しています。ガーナの職人の精魂込めた手作りです。木材のブロックから細心の注意を払い手彫りで形作ります。贈る者への特別な敬仰の念やメッセージが込められ、デザインとサイズその造形は明確なメッセージが表現されています。すなわち連携体を象徴しています。

先祖伝来の織物技術の証しである、鮮やかな色や模様の伝統織物ケンテは、ガーナの王室専用で作られるものでした。何世紀にもわたって織られてきたもので、ガーナの歴史、哲学、慣習、社会的理念の視覚的表現です。

この伝統的なスツール（玉座）と伝統織物ケンテの融合芸術、その名も「威厳ある結束」は、文化に富み多様性を重視したガーナ共和国とその民族性を表しています。文化・伝統・芸術性とその国を統一してきたのです。

又、ガーナ共和国大統領夫人からのこの贈り物は、ガーナと猪苗代町間の強い友情と絆を実証しています。両国間の実りある関係は、野口英世博士の世界での活躍が基盤となっています。

2020東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて準備するにあたり、猪苗代町また野口英世記念館が、世界各国の方々への訪問先となる

よう、またこの贈り物がそのシンボルとなりますよう願っております。私どもの貴重な友好関係が強化されつつ永遠に続くことをお祈りいたします。



玉座の展示

野口英世アフリカ賞受賞者来館

令和元年9月1日

2019年8月30日第3回野口英世アフリカ賞の授賞式が天皇后両陛下ご臨席の下、東京の明治記念館で行われました。

第3回の受賞者は医学研究分野がジャン・ジャック・ムエンベ・タムフム博士（コンゴ民主共和国）、医療活動分野がフランシス・ジャーバス・オマスワ博士（ウガンダ共和国）の両博士が受賞されました。

9月1日には両博士が野口英世記念館を訪れました。猪苗代の小中学生や町民に歓迎された両博士は、野口英世の故郷を訪れたと思っていたと感慨深く感想を述べられました。両博士は短い滞在時間ではありましたが、記念館で野口英世のゆかりの品に目を向けていました。



館内を見学する受賞両博士夫妻



猪苗代町立猪苗代中学校1年生 5名見学学習

令和元年9月11日



館内を見学する中学生

2019年9月11日に、猪苗代町立猪苗代中学校の1年生5名が総合学習の授業として、野口英世記念館で見学学習を行いました。この授業では、校外に出て直接地域の人々や施設から学ぶと同時に、社会生活に必要なマナーを身に付けることを目的に行われました。生徒たちは、日頃身近に感じる野口英世をさらに深く知るために、事前に疑問に思うことを質問事項にとりまとめ、実際に記念館を見学しながら学芸員から説明を受けました。生徒たちは生まれ育つ地域の先輩でもある野口英世をより身近に感じていました。

野口英世の生家で年中行事

令和2年1月14日、2月3日



ミズキの枝に団子さし

今年も野口英世の後輩にあたる、翁島小学校の1年生と3年生の児童が会津の年中行事である団子さしと節分豆まきを行いました。1月14日には五穀豊穡を願い、ミズキの枝に色とりどりの団子を飾り付けてくれました。2月3日には節分の豆まきを生家で行い、児童のみなさんの掛け声のもと、生家に現れた鬼に向かって元気よく豆をぶつけて、鬼を退治してくれました。

今年も野口英世の後輩にあたる、翁島小学校の1年生と3年生の児童が会津の年中行事である団子さしと節分豆まきを行いました。1月14日には五穀豊穡を願い、ミズキの枝に色とりどりの団子を飾り付けてくれました。2月3日には節分の豆まきを生家で行い、児童のみなさんの掛け声のもと、生家に現れた鬼に向かって元気よく豆をぶつけて、鬼を退治してくれました。

さとつぎび親善大使来館

令和2年1月14日



博士と一緒に記念写真

沖縄県と福島県の交流を目的にした「うつくしま・ちゅうらしま総合事業」の一環で沖縄県の「さとうきび親善大使」が1月14日に記念館を訪れました。今年のさとつぎび親善大使は沖縄県西原町立坂田小学校6年生の玉那心愛さんと大城考太郎さんのお二人です。

記念館の見学とともに野口英世の生家で会津の年中行事団子さしを体験してもらいました。

沖縄県に帰られて、福島県での体験をみんなに伝えていただければと思います。

各地で行われたイベント

いなわしろフェスティバル

磐梯青少年交流の家

令和元年6月2日・令和2年1月19日

国立磐梯青少年交流の家で行われる交流イベント「いなわしろフェスティバル」に野口英世記念館も参加いたしました。記念館のブースでは、P



フォトフレーム制作

Rとともに来場者に段ボールという紙でつくるフォトフレームを工作してもらいました。いろ紙で装飾したフォトフレームは、おうちに帰っても楽しめるように写真や絵はがきなどを飾ることができます。子どもたちは、よりたくさんいろ紙をつけようと糊と格闘しながら一生懸命フォトフレームを作っていました。

極上の会津イベント 磐梯山SA

令和元年8月31日

会津17市町村の魅力を紹介し観光誘致を行っている極上の会津プロジェクトが、磐越自動車道磐梯山サービスエリアにおいて観光PRを行い、野口英世記念館も参加しました。

サービスエリアに休憩に来られた方たちに、各地の物産や見所を紹介しました。当日は野口英世記念館広報大使ヒディも参加し、各地のゆるきやらと一緒に写真撮影を行いました。



会津の魅力を紹介

野口英世の書「自戒」贈呈式

令和元年9月12日

2019年1月、福島市にある福島看護専門学校より野口英世の直筆の書「自戒」が発見されました。この書はその由来は明らかではありませんが、大正4年に野口が帰国した際に同校関係者に贈られ、保管されていたと思われます。

同校を運営する公益社団法人福島明星厚生学院より、野口英世記念会へ寄贈の申し出をいただき、9月12日に福島看護専門学校において贈呈式が行われました。

存在が明らかでなかった直筆の書が発見されることは大変珍しく、また、その保存状態も日に焼けることなく良好なものでありました。

贈呈を行った公益社団法人福島明星厚生学院小山菊雄理事長、福島看護専門学校渡邊艶子校長は、「広く国民、県民の皆様に機会があれば見ていただくべきとの観点から寄贈を決めた」と述べられました。野口英世直筆「自戒」の書は9月21日より開館80年記念特別展のなかで、初公開し、多くの人の目を楽しませました。



左より大戸和子副校長、小山菊雄理事長、渡邊艶子校長、八子弥寿男館長

ハイウェイフェスタとうほく2019

仙台勾当台公園

令和元年9月21日・22日

高速道路を管理運営するNEXCO東日本東北支社が主催するハイウェイフェスタとうほく2019が仙台市勾当台公園で開催されました。

野口英世記念館も極上の会津プロジェクトの一員として会津地域の観光と記念館のPRを行いました。野口英世記念館広報大使ヒデイもステージでのPRタイムをもらい、各市町村とともに猪苗代町と野口英世記念館の魅力をパネルで紹介しました。



ハイウェイフェスタとうほく2019

ばんえつ発見の旅連携事業

イオン郡山フェスタ

令和元年10月6日

磐越自動車道が通る越後・磐梯・阿武隈にある博物館施設の連携事業であるばんえつ発見の旅サポートによるPRイベントが郡山市のイオン郡山フェスタで行われ、野口英世記念館も参加し、PRを行いました。この事業は、博物館・美術館・

水族館のような12の多彩な施設が参加しているため、移動水族館やフォトスポットなど、各施設趣向を凝らして来場者を楽しませていました。



野口英世記念館PRブース

イオン会津フェスタ2019

越谷レイクタウン

令和元年10月4日～6日

会津の魅力を各地のイオン店舗で紹介するイオン会津フェスタ2019が開催され、野口英世記念館は埼玉県越谷市にある越谷レイクタウンのフェスタに参加しました。PRブースでは記念館の紹介VTRを映写し、パネルやパンフレットでPRをしました。ステージでは野口英世紙芝居でお子様から大人の方まで分かりやすく野口英世の生涯を紹介しました。

出前授業に行きます！

野口英世記念館では、修学旅行で野口英世記念館の見学を予定している小学校・中学校へ、あるいは修学旅行の宿泊先へ、野口英世記念館の職員が出向いて、野口英世の生涯と業績を分かりやすくお話する出前授業を行なっています。

平成31（令和元）年度は、126校で出前授業を行いました。いずれの学校でも、児童・生徒の皆さんが、熱心に話を聞いていただきました。たくさんいただいたお礼のお手紙の中から、7通を選んで紹介します。

宮城県気仙沼市立面瀬小学校 6年

赤間 朔さん



今日は、本当にありがとうございました。

僕は小さい頃から1000円札を見ていて、これだれだろうと思っていました。

母さんに聞いても、とても難しかったので覚えられませんでした。

今日教えてもらった中でも、一番おどろいた所が、野口英世が左手を火傷していたことは少し前から知っていましたけど、手術を受けていたことは知らなかったです。ずっとグーのまま研究や実験をしていたと思っていました。

そして、病気と向き合って、病気になる危険があるのに、わざわざ現地に行って調べたことが、印象的でした。それだけではなく、野口英世は決して感謝を忘れない人と聞いたとき、僕も感謝を忘れない人間になろうと思いました。

僕は野球をやっています。僕がスポーツが出来るのは、母さんとはあちゃんがいるからです。なので、僕も野口英世のように感謝を忘れない人間になりたいです。

宮城県仙台市立木町通小学校 6年

秋葉 宏太さん



先日は野口英世さんについてのお話をありがとうございました。

ぼくは、野口英世が柱に刻んだ「志を得ざれば再び此の地を踏まず」という言葉に感心しました。英世の「絶対に医者になる！」という強い気持ちが表れている言葉だと思います。

そしてアメリカにある英世の墓に刻まれている言葉「科学へのけんしんにより、人類のために生き、そして人類のために亡くなった」は、本当にそのとおりだと思います。死亡率50%の病を5%に下げたり、蛇毒の血清をつくったりして、多くの人の命を救ってくれました。

僕は、先日の出前授業を聞いて、人生を決めるのは勉強なのかなと思いました。これからも勉強をがんばっていきます。

新潟県新潟市立葛塚東小学校 6年

板垣 心さん



今日は野口英世についての話をいろいろ聞かせていただき、ありがとうございました。私は、野口英世について「千円札になるくらいすごい人」「黄熱病の人」くらいしか知りませんでした。なので、修学旅行で野口英世記念館に行くと思っていたけれど、3、4年生の時に、一度伝記を読んだので、なんとなくこの人すごいなと思いました。

今日、出前授業を聞いて、野口英世に興味を持ちました。修学旅行の時には、もっとくわしく知りたいと思いました。今日のお話で、黄熱病の研究をしてたくさんの方の命を助けた事が分かりました。でもノーベル賞を取ったことがないのは意外でした。しかし、2回もノーベル賞の最終候補にまでなっているので、それはすごいと思います。野口英世の研究のしかたもすごいと思います。

病気がはやっていく所へ直接行くのはすごいと思います。私だったら、自分がかかるかもしれないので、こわくて行けないと思います。なので、野口英世は勇気のあるやさしいすごい科学者だと思います。

あと何年かで「千円札の人」ではなくなるけど、そうなるのもわすれなくらい、記念館で勉強をしたいと思いました。

宮城県仙台市立沖野東小学校 6年

木村 泉衣菜さん



私が野口英世の出前授業を聞いて、初めて知ったことは6つあります。

1つ目は左手の大やけどをしたことです。やけどをしたのは知っていたけど、ひどいやけどとは知りませんでした。

2つ目は、野口英世がいじめられていたということです。そして、いじめられても負けなくて、強い心を持っていた、すごいと思いました。

3つ目は、野口英世の家が貧乏だったということです。でも、貧乏な野口英世を助けてくれた友達がすごくいい友達だなと思いました。

4つ目は、小林先生がお金を出して、学校に通ったことです。野口英世を通わせるためにお金を出し勉強をさせて、すごい先生だと思いました。

5つ目は、野口英世が黄熱病の研究をしていた

ことです。みんなが黄熱病にかかって亡くなっていて、きけんなのにもかかわらず、黄熱病の研究をしていて、すごいと思いました。

6つ目は、自分が黄熱病にかかって亡くなったことです。自分の命をかけて人を助けてすごいと思いました。

私は今まで、ただ千円札の人としか思っていなかったけど、どうして千円札の人になったか知らなかったの、野口英世のことを知ってよかったです。これからも、野口英世のことをしらべようと思いました。

宮城県仙台市立袋原小学校 6年

佐々木 美晴さん



この前は、わざわざふくしま県から私たちの学校へ来ていただき、ありがとうございました。野口英世の事がとても分かりました。やけどや手術、英世の人生を変えていった人、とっても分かりやすい説明をしてくれてすごかったです！

野口英世の「すごい」と思った事はたくさんあります!! 野口英世は、英語・ドイツ語・フラン

ス語・中国語・スペイン語・ロシア語・イタリア語が、すべて日常の言葉だったという事は、とてもおどろきました。

外国で、とても危険な病気を研究して、薬を作って、伝染率を50%から5%に下げたのがすごいと思いました。今のガーナ共和国で病気の研究をしたのに、研究中に51才で黄熱病に感染して死亡してしまいましたが、とてもたくさんの研究をしていたのが分かりました。

本当にありがとうございました。

埼玉県久喜市立小林小学校 6年

野川 唯菜さん



この間は、私たちの小林小学校へ出前授業に来てくださり、ありがとうございました。私は、野口英世さんのことをまったく興味がなく、なぜこの人が千円札にのっているのか不思議でした。ですが、出前授業で野口英世の話を聞いて、英世のつらい過去や功績がわかりました。

子どものころ、いろいろでやけどをし、それをネタにイジメられていたにもかかわらず、がまんし、

とてもすごい成績を出している野口英世に「すごい、私もこうなりたい」と思いました。私は、そんな英世にまけないぐらい、あいさつや返事をしっかりして努力をします。

栃木県小山市小山中学校 2年

石井 敦也さん



野口英世さんの活躍を写真や言葉で解説してくださったおかげで、野口英世さんの偉大な功績を知ることができました。

僕は、野口英世さんのことに触れたことがなく、1000円札おじさんとは思っていませんでした。で、今回このような機会にお話をしていただいて、野口英世はただのお札のおじさんでなく、偉大な功績を残した世界でも活躍した人ということが分かりました。日本人の偉人の一人というすごい人だと知ることができました。

戦争などが起きはじめた時代でも、他国の人々を敵味方関係なく、一人の人間として、病気を持つ患者を助けるために外国へなんども向かい、たくさんの人々を救ってきたのだと考えると、素晴らしい人だと思いました。

らしい人だと思いました。

僕は今年、立志スキー教室があり、一日目に野口英世記念館に行くので、記念館で展示されているものなどを見学して、もっともっと野口英世さんの偉大さを知りたいと思います。



仙台市立沖野東小学校での出前授業

平成31（令和元）年度に出前授業を行った学校は次の通りです。

福島県

会津美里町立高田中学校
会津美里町立新鶴中学校
田村市立瀬川小学校
福島市立飯坂小学校
福島市立吉井田小学校
福島市立金谷川小学校
本宮市立糠沢小学校

宮城県

石巻市立石巻小学校
石巻市立開北小学校
石巻市立釜小学校
石巻市立中津山第一小学校
石巻市立中津山第二小学校
石巻市立前谷地小学校
石巻市立湊小学校
岩沼市立岩沼小学校
大郷町立大郷小学校
角田市立西根小学校
角田市立藤尾小学校
加美町立中新田小学校
加美町立鳴瀬小学校
加美町立西小野田小学校
加美町立東小野田小学校
加美町立広原小学校
川崎町立川崎小学校
栗原市立金成小学校
気仙沼市立面瀬小学校

気仙沼市立九条小学校
気仙沼市立鹿折小学校
蔵王町立永野小学校
塩竈市立玉川小学校
塩竈市立月見ヶ丘小学校
七ヶ浜町立汐見小学校
白石市立小原小学校
白石市立越河小学校
白石市立白川小学校
仙台市立旭丘小学校
仙台市立泉松陵小学校
仙台市立市名坂小学校
仙台市立入来田小学校
仙台市立生田小学校
仙台市立大沢小学校
仙台市立沖野東小学校
仙台市立上杉山通小学校
仙台市立北中山小学校
仙台市立国見小学校
仙台市立黒松小学校
仙台市立木町通小学校
仙台市立幸町南小学校
仙台市立桜丘小学校
仙台市立将監小学校
仙台市立高砂小学校
仙台市立立町小学校
仙台市立燕沢小学校
仙台市立鶴谷小学校
仙台市立富沢小学校

仙台市立長町南小学校
仙台市立西多賀小学校
仙台市立西中田小学校
仙台市立原町小学校
仙台市立袋原小学校
仙台市立南材木町小学校
仙台市立宮城野小学校
仙台市立吉成小学校
仙台市立連坊小路小学校
大和町立小野小学校
大和町立宮床小学校
富谷市立明石台小学校
富谷市立富ヶ丘小学校
富谷市立成田東小学校
登米市立錦織小学校
登米市立西郷小学校
登米市立米岡小学校
登米市立米谷小学校
名取市立ゆりが丘小学校
東松島市立赤井南小学校
東松島市立鳴瀬桜華小学校
東松島市立矢本東小学校
松島町立松島第一小学校
松島町立松島第五小学校
松島町立松島第二小学校
松島町立青生小学校
美里町立南郷小学校
美里町立不動堂小学校
南三陸町立志津川小学校

南三陸町立戸倉小学校
南三陸町立名足小学校
村田町立村田小学校
山元町立坂元小学校
山元町立山下小学校
山元町立山下第一小学校
利府町立利府小学校
亘理町立吉田小学校
加茂市立石川小学校
佐渡市立金井小学校
佐渡市立真野小学校
三条市立裏館小学校
三条市立上林小学校
田上町立田上小学校
燕市立小池小学校
長岡市立信条小学校
新潟市立大鷲小学校
新潟市立葛塚東小学校
新潟市立新津第三小学校
新潟市立巻南小学校
見附市立新潟小学校

埼玉県

川島町立つばさ北小学校
久喜市立栢間小学校
久喜市立小林小学校
幸手市立さかえ小学校

新潟県

幸手市立長倉小学校
三郷市立新和小学校
三郷市立瑞木小学校
白岡市立善哉小学校
白岡市立西小学校
白岡市立南小学校
草加市立谷塚小学校
草加市立西町小学校
八潮市立八条北小学校

東京都

荒川区開成高等学校
江戸川区立新堀小学校
品川区立荏原第六中学校
杉並区立高円寺中学校
杉並区立杉並和泉学園

茨城県

つくば市立谷田部中学校

神奈川県

湯河原町立吉浜小学校

栃木県

小山市立小山中学校

令和元年度の受け入れ資料

○野口英世書「自戒」・肖像画

（福島県・公益社団法人福島明星厚生学院）
福島看護専門学校

【関連記事38ページ】

○野口英世書「月淡煙沈」

「野口英世の少年時代」ポスター

（福島県・萩谷けい子氏）



1956年上映当時のポスター

○野口英世書「養老」（寄託）

（福島県・小檜山久栄氏）

○野口英世墓前祭写真

（福島県・野口勝宏氏）

ニューヨーク日本クラブで行われた野口勝宏氏の写真展「福島の花」にあわせて渡米された際、命日の墓前祭に参加されその模様を撮ってきて下さいました。

○野口英世生家登録有形文化財登録証・プレート

（東京都・文部科学大臣柴山昌彦氏）

○志賀潔関連論文

（京都府・松田利彦氏）

○野口英世記念館絵はがき他

（東京都・松本修氏）

○星一書「親切第二」他

（福島県・八子弥寿男氏）

○ミッチェル宛野口英世書簡（画像データ）

（アメリカ・西村曜子氏）

アメリカ・ペンシルベニア大学美術館に所蔵されている書簡。蛇毒の研究の際に師事したサイラス・W・ミッチェル博士に送ったもので、パーティーでのお礼や、日本の干支に関する解説を図版付で紹介しています。日本ではその存在が把握できていなかった書簡です。

○ヒデヨノグチ学園ポロシャツほか

（ペルー・ヒデヨノグチ学園）

○「川井源八小伝」

（神奈川県・若林義一氏）

○野口英世関連書籍・資料

（福島県・丹春雄氏）

寄贈者の父親である丹実氏は野口英世の研究家として知られ、関連蔵書や資料を一括して当会に寄贈いただきました。丹氏の編集した講談社刊『野口英世』は伝記・書簡・業績・回想の4巻構成で、野口英世関連資料を網羅した研究の為の必読の書となっています。

○油彩画「磐梯火山とたんぼ」

（メキシコ・ホルヘ・オブregon氏）

【関連記事29ページ】



雄大な表磐梯の風景

○ガーナ伝統玉座「威厳ある結束」

（ガーナ・ガーナ共和国政府）

【関連記事35ページ】

本年も多くの資料寄贈・寄託・情報提供をいただきました。この場を借りましてお礼申し上げます。今後も資料などの情報がございましたらご一報いただきたくお願いいたします。

令和元年度 主な行事

令和元年

3月21日～9月12日	開館80年記念特別展 前期「記念館を訪れた人々」	8月14日	駐日ガーナ共和国大使フランク・オチエレ閣下来館
3月21日～4月7日	春のおもてなし企画	8月30日	第3回野口英世アフリカ賞授賞式 於東京・明治記念館
4月1日	野口英世記念会報第64号刊行	8月31日	第2回評議員会
4月27日～5月6日	GWおもてなし企画	8月31日	極上の会津イベント 記念館PR
4月28日	生家登録有形文化財石柱碑除幕式		於磐梯山SA
4月29日	おかめの会さくらまつり 記念館PR	9月1日	第3回野口英世アフリカ賞受賞者来館
5月12日	野口英世博士顕彰記念中学校球技大会	9月11日	猪苗代町立猪苗代中学校1年生5名見学学習
5月17日	第1回資金運用委員会（書面審議）	9月12日	野口英世博士顕彰記念小学校体育祭
5月18日	監事監査		於猪苗代町運動公園
5月21日	第91回野口英世博士命日祭	9月13日～令和2年3月19日	開館80年記念特別展 後期「あなたが訪れたのはいつの頃」
6月1日	野口英世記念館開館80年 第1回理事会	9月14日～23日	秋のおもてなし企画（期間中6日間開催）
6月2日	いなわしろフェスティバル 記念館PR	9月17日	生家燻蒸
	於磐梯青少年交流の家	9月21日	野口英世直筆の書「自戒」初公開
6月18日	生家燻蒸	9月21日・22日	ハイウェイフェスタとうほく2019 於仙台勾当台公園
6月20日	猪苗代町立緑小学校緑の少年団 花プランター寄贈	10月1日	野口英世博士顕彰記念小中学校音楽祭 於学びいな
6月21日	生家登録有形文化財登録プレート伝達式	10月3日	野口英世博士顕彰記念少年科学賞審査会 於至誠館
6月23日	第1回評議員会		
6月25日	第2回理事会（書面審議）	10月6日	ばんえつ発見の旅連携事業 記念館PR
7月6日	野口英世記念医学賞選考委員会 於東京		於イオン郡山フェスタ
7月13日～8月31日	夏のおもてなし企画	10月12日～22日	秋のおもてなし企画第2弾（期間中7日間開催）
8月3日	第57回奨学生懇親会・令和元年度奨学生証贈呈式		
8月9日	救世観音祭礼		

令和元年度 主な行事

10月25日	ラ・フェスタ・ミッレミリア2019
10月26日・27日	野口英世来墨100年記念行事
11月2日	第62回野口英世記念医学賞授賞式
	駐日ガーナ共和国大使・フランク・オチエレ閣下来館
11月9日	第143回野口英世誕生祭
11月9日	第25回野口英世博士顕彰記念少年科学賞授賞式
11月9日	第58回野口英世博士顕彰記念作文コンクール授賞式
12月1日	第18回母から子への手紙コンテスト表彰式
	於学びいな
12月14日	奨学生選考委員会
12月21日～2月24日	冬のおもてなし企画（期間中18日間開催）
12月29日～1月3日	年末年始休館
令和2年	
1月14日	団子さし
1月14日	さとうきび親善大使来館
1月18日	ガーナ共和国より玉座贈呈式
1月19日	第3回いなわしろフェスティバル冬
	於国立磐梯青少年交流の家
1月31日	第2回資金運用委員会
2月3日	節分豆まき
2月21日	野口英世博士顕彰記念小学校スキー大会
3月14日	第3回理事会（書面審議）
3月（予定）	第3回評議員会（書面審議）

令和2年度 主な行事予定

令和2年	
4月17日～令和3年3月18日	渡米120年記念特別展「野口英世 世界の舞台へ」
5月21日	第92回野口英世博士命日祭
5月	野口英世博士顕彰記念中学校球技大会
6月	第1回理事会
6月	第1回評議員会
8月9日	救世観音祭礼
8月	第58回奨学生懇親会・令和2年度奨学生証贈呈式
9月	野口英世博士顕彰記念小学校体育祭
10月	野口英世博士顕彰記念中学校音楽祭
11月9日	第144回野口英世博士誕生祭
11月9日	第26回野口英世博士顕彰記念少年科学賞授賞式
11月9日	第59回野口英世博士顕彰記念作文コンクール授賞式
11月	第63回野口英世記念医学賞授賞式
12月	第19回母から子への手紙コンテスト表彰式
令和3年	
1月	団子さし
2月	節分豆まき
2月	野口英世博士顕彰記念小学校スキー大会
3月	第2回理事会
3月	第2回評議員会

寄付のお願い

日頃より公益財団法人野口英世記念会の事業にご理解、ご支援を頂きまして、心より感謝申し上げます。

野口英世記念館は平成27年4月1日にリニューアルいたしました。野口英世の生涯と業績の展示をわかりやすく一新するとともに、野口英世が挑んだ細菌の世界を、ゲームやクイズで体験していただくコーナーを新設しました。多くのお客様に是非一度ご来館いただきたく、お待ちしております。

この度の新展示館のオープンを機会に、野口英世の生涯と業績をより多くの人に広く知っていただくため、職員一同一層の努力をいたします。

つきましては、皆様には野口英世記念会の活動に重ねてご理解とご支援を頂き、ご寄付を賜りますようお願いもうしあげます。

公益財団法人野口英世記念会

寄付の申込方法

- 「寄付申込書」に必要事項をご記入いただき、事務局まで郵便、FAXまたはE-mailでお送り下さい。お申し込みは随時受け付けます。
- お申し込みをいただきましたら、野口英世記念会から郵便振込用紙をお送りします。振込手数料は野口英世記念会が負担します。
- 寄付金の額は、一口3,000円をお願いします。
- ご寄付いただいた寄付金は税法上の優遇措置として「所得控除」の対象となります。寄付金の額から2,000円を引いた額を当該年度の所得から控除できます。ただし、年間総所得額の40%が限度です。
- ご寄付の特典については、ホームページをご覧ください。
- ご寄付を頂いた方は寄付者銘板に芳名を掲載します。掲載を希望されない方はお申しつけ下さい。



寄 付 申 込 書

寄付金額 金 円

ふりがな	
氏 名	印
住 所	〒
電話番号	
E-mail	@

◎ ご記入いただきました寄付申込書は、下記事務局まで郵便、FAXまたはE-mailでお送り下さい。

事務局

公益財団法人 野口英世記念会

〒969-3284 福島県耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字前田81番地

TEL:0242-85-7867

FAX:0242-23-7122

E-mail:office@noguchihideyo.or.jp

野口英世 渡米120年記念特別展

25才の野口英世
アメリカに渡り、
最初に到着した
フィラデルフィアで撮影

The 120th
Anniversary of
Dr. Hideyo
Noguchi's
Arrival in the
USA

野口英世 世界の舞台へ

その道は、伝染病の研究へとつづく。

今から120年前の1900年、野口英世は単身アメリカへと渡りました。英世がアメリカに渡った頃は、まだ船での渡航で、海外との行き来は大変難しい時代でした。

そのような中、英世は研究のチャンスをつかみ世界の医学者へと成長しました。研究の成功とともに国際人として世界に名を轟かせるという名誉もつかむことが出来ました。

当時の野口英世がどのような想いをもって渡米し、アメリカで研究を行っていたか、その想いを恩師に宛てた手紙や写真からご紹介します。

会期：2020年4月17日(金)
～ 2021年3月18日(木)

会場：野口英世記念館 1階展示室

4月～10月 午前9時～午後5時30分 ● 大人：15歳以上 600円 / こども：小・中学生 300円
(入場は午後5時まで) ● 一般団体 (20名様以上)：大人 550円 / こども 250円

11月～3月 午前9時～午後4時30分 ● 学生団体：高校・大学・各種学校生 400円 / 小・中学生 250円
(入場は午後4時まで)

Hideyo Noguchi Memorial Museum
野口英世記念館

福島県登録博物館第1号(1954)
〒969-3284
福島県耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字前田81
tel: 0242-65-2319
<http://www.noguchihideyo.or.jp>



野口英世記念館案内

【設立】

1939年（昭和14）5月21日 開館
1954年（昭和29）
福島県第1号登録博物館

《ご利用案内》

開館時間

4月～10月
午前9時～午後5時30分
11月～3月
午前9時～午後4時30分

ただし最終入館は閉館30分前まで

休館日

年末年始（12月29日～1月3日）

入館料金

○個人料金

大人 600円

子ども（小中学生） 300円

○団体料金（20名以上）

大人 550円

子ども 250円

○学生団体（学校引率）

小中学生 250円

大学・高校・各種学校 400円

【沿革】

1928年（昭和3）5月21日野口英世博士が西アフリカで殉職した翌月、日本工業倶楽部で行なわれた追悼会に際し、「野口英世博士記念会」（記念会）が設立された。

記念会は、翌年に生家の保存と二つの記念碑を建立、1938年（昭和13）には、文部大臣より財団法人の設立が許可され、その翌年の博士の命日に「野口英世記念館」が開館した。

記念会は、2013年（平成25）4月、公益財団法人に移行し、2015年（平成27）4月には、新展示館をリニューアルオープンした。

2019年（平成31）3月、生家が国の登録有形文化財に登録された。

お問い合わせ

福島県耶麻郡猪苗代町三ツ和字前田81

電話 0242（65）2319

ホームページ

<https://www.noguchihideyo.or.jp>

野口英世記念会報 第65号

公益財団法人野口英世記念会

発行日 2020年4月1日

発行人 竹田 美文

編集人 森田 鉄平

〒969-3284

福島県耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字前田81

公益財団法人野口英世記念会

電話 0242（85）7867

FAX 0242（23）7122

E-mail office@noguchihideyo.or.jp



公益財団法人 野口英世記念会